

所管事務調査報告書（案）

委員会名	予算決算委員会
調査研究 テーマ	「いいだ未来デザイン2028」の評価・検証 (議会による行政評価の実施)
テーマ設定の 背景	・飯田市自治基本条例第22条の規定により議会による行政評価を行い、市の執行機関の活動を監視することによって、適正な行政運営の確保に努める。また、議決事件とした基本構想基本計画の進行管理に関与することで、議会としての責任を果たす。
調査研究の 経過・結果	<p>[課題整理]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いいだ未来デザイン2028」の進行管理のため、議会として、戦略計画を中心に基本目標ごとに評価・検証を行い、執行機関に対して提言を行う。 ・2022（令和4）年度の実績をもとに、基本目標、年度戦略（小戦略）、事務事業を対象として、別途作成する評価の視点に基づいて評価を行う。今年度は「中間期審査」の3年目にあたるため、各分科会において、令和4年度の評価報告等を受けた後、4年度に評価対象としなかった基本目標を選定することを原則とし、各分科会において決定する。 ・事務事業評価については、例えば3常任委員会の所管事務調査に関わりの深い事務事業、基本目標・年度戦略の評価において課題があると思われる項目に関連する事務事業等を選定し、決算審査とは別に評価を行う。 <p>[取組経過] ※事前の取り組み内容も含む</p> <p>【令和5年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 5月22日 準備会 実施要項（原案）の協議 ➤ 5月30日 委員会（第2回定例会前期全体会）実施要項（原案）の協議 ➤ 6月9日 準備会 実施要項（原案）の協議 ➤ 6月7日 委員会（第2回定例会中日全体会） 実施要項（原案）の協議 ➤ 6月21日 準備会 実施要項（案）の協議 ➤ 6月23日 委員会（第2回定例会後期全体会） 実施要項の確認 所管事務調査決定、閉会中の継続審査決定 ➤ 6月30日 準備会 日程、評価シートの確認 ➤ 7月20～21日 行政評価ステップ1 各分科会、連合会議 執行機関から実績説明を受ける。評価対象事務事業の選定 ➤ 7月22～28日 行政評価ステップ2 個々の議員による評価 ➤ 8月3・4日 行政評価ステップ3 各分科会、連合会議 分科会による意見集約、執行機関から事務事業の実績説明を受ける。 ➤ 8月5～30日 行政評価ステップ4 各分科会 事務事業評価意見集約 8月22日 準備会 行政評価の進捗状況の共有 ➤ 8月30日 行政評価ステップ5 委員会（第3回定例会前期全体会） 分科会での検討経過の協議・確認 ➤ 9月6～20日 行政評価ステップ6 各分科会（連合会議） 評価提言内容の取りまとめと必要に応じ執行機関との意見交換

	<p>9月13日 準備会 行政評価の進捗状況の共有</p> <p>➤ 9月16～27日 各分科会による提言内容の確認</p> <p>9月21日 準備会 行政評価の各分科会のまとめの確認</p> <p>➤ 9月25日 委員会（第3回定例会後期全体会） 行政評価の各分科会のまとめの確認</p> <p>➤ 9月27日 行政評価ステップ7 委員会（自律的全体会） 提言内容の調整と全体会での確認</p> <p>➤ 9月29日 行政評価ステップ8 議長から市長に提言書を手交</p> <p>【令和6年】</p> <p>➤ 2月19日 準備会 行政評価ステップ10 「議会による行政評価」からの評価及び提言書への対応状況共有 行政評価の方向性等の共有</p> <p>➤ 2月26日 準備会（※） 当初予算案審査に向けての状況共有 当初予算審査に向けて論点抽出のための準備会を開催。</p> <p>➤ 2月27日 委員会（第1回定例会前期全体会） 行政評価ステップ10 当初予算議案審査</p> <p>➤ 3月4～7日 各分科会・連合審査会行政評価ステップ11 当初予算議案審査、「議会による行政評価」からの評価及び提言書への 対応状況、令和6年度戦略計画確認</p> <p>➤ 3月21日 委員会（第1回定例会後期全体会） 分科会での振り返り</p> <hr/> <p>【調査研究結果】</p> <p>●昨年までの実施の課題等を検証し、「2023（令和5）年度「議会による行政評価」実施要 項」（別紙資料1）を調整し、実施した。</p> <p>●令和5年9月29日に市長に提言書（別紙資料2）を手交。</p> <p>●令和6年第1回定例会において、当初予算議案審査、「議会による行政評価」からの評価 及び提言書への対応状況確認、令和6年度戦略計画の確認。</p> <hr/> <p>【今後の対応】</p> <p>●令和6年第1回定例会終了後に、行政評価全体の振り返りを実施。</p> <p>●中期計画期間最終年度として後期計画の議決を意識した次年度への申し送り事項等を確認 する。</p>
--	---

2023（令和5）年度「議会による行政評価」実施要項

1 目的

飯田市自治基本条例第22条の規定により議会による行政評価を行い、市の執行機関の活動を監視することによって、適正な行政運営の確保に努める。また、議決事件とした基本構想基本計画の進行管理に関与することで、議会としての責任を果たす。

2 基本方針

(1) 「いいだ未来デザイン2028」の進行管理のため、議会として、戦略計画を中心に基本目標ごとに評価・検証を行い、執行機関に対して提言を行う。

令和2年度の予算決算委員会準備会における課題整理のなかで「『いいだ未来デザイン2028』に対する行政評価を4年間のサイクルでどう行うか」について、〈評価方式〉を次の①から③までのようにまとめた経緯を踏まえ、評価を実施するものとする。

- | |
|---|
| ① 初年度審査 ---- 計画初年度として、基本目標ごとに計画の構成を評価する。 |
| ② 中間期審査（2-3年目） ---- 委員会構成の変更を踏まえ、戦略・分野別計画の項目を分割し、重複しないよう双方を2年の間に評価する。 |
| ③ 最終年審査 ---- 基本目標の見直し年度として評価する。 |

(2) 2022（令和4）年度の実績をもとに、基本目標、年度戦略（小戦略）、事務事業を対象として、別途作成する評価の視点に基づいて評価を行う。今年度は「② 中間期審査」の3年目にあたるため、各分科会において、令和4年度の評価報告等を受けた後、4年度に評価対象としなかった基本目標を選定することを原則とし、各分科会において決定する。

(3) 事務事業評価については、例えば3常任委員会の所管事務調査に関わりの深い事務事業、基本目標・年度戦略の評価において課題があると思われる項目に関連する事務事業等を選定し、決算審査とは別に評価を行う。これは、事務事業が予算決算に直結しており「議会の政策サイクルを回す」という視点「方向性の妥当性など上から下へ俯瞰する視点」及び「目標達成への貢献度や効果など下から上へ仰視する視点」を重視したいとの考えに基づく。なお、選定しなかった事務事業については、行政評価の対象外とし、決算審査において検討する。

3 実施計画

(1) 基本的考え方

① 位置付け

行政評価は、予算決算委員会の所管事務調査として「閉会中」も継続して調査を行う。

* 6月定例会において、閉会中の継続調査として位置付ける。

② 実施体制

行政評価の実施体制は、総務委員会、社会文教委員会及び産業建設委員会の3つの委員会の構成員による予算決算委員会分科会（以下「分科会」）が、各基本目標を分担して評価を行うことを原則とし、基本目標のマネジメントリーダー（執行機関の各部局長）の所属する分科会が担当する。

ただし、複数の分科会に関連する基本目標については、必要に応じて連合審査会を開催することとする。また、リニア中央新幹線に関連する事項については、リニア推進特別委員会の構成員による分科会を設置し、担当分科会と連合審査会を開催する。

また、評価の進め方などにおける認識の共有を図るため、予算決算委員会準備会の場、その他において分科会間の調整を行う。

③ 評価の進め方

評価の進め方については「いいだ未来デザイン2028」に対する前年度の取り組みについて執行機関側から説明を受けた後に、まずは基本目標と年度戦略（小戦略）について、分科会を中心に評価を行う。その後に、選定した事務事業についての評価を行う。

④ 評価にあたっては、別紙の「2023(令和5)年度『議会による行政評価』の評価の視点について」を参照することとし、評価の過程においては「論点抽出表」や「議員間自由討議」を

- ⑨ **ステップ8 「提言」** ステップ7以降 日程調整
 ア 執行機関の次年度予算編成作業に支障を来さない範囲において日を設定し、議長から市長に対し提言を行う。
 イ また、委員長立ち会いのもと、分科会正副座長において、所管する部長への提言についての説明を行う。
- ⑩ **ステップ9 「ステップ8までの振り返り」** 別途 日程調整
 ア 各分科会で日程を確保し、ステップ8までの取り組みに関し振り返りを行う。
 イ 予算決算準備会を開催し、各分科会での振り返りから課題等を抽出し、次年度への改善点等としてまとめる。
 ウ 必要に応じ、予算決算委員会全体会で共有する。
- ⑪ **ステップ10 「提言後の進行管理」** ～令和6年第1回定例会開会日
 ア 閉会中の所管事務調査として、分野別計画の調査等を進め、決算と予算を連動させるために、論点や争点の明確化など審査に深みをもたせるための準備を進める。
 イ 提言に対する執行機関の対応状況についての資料を、可能な範囲において早い時期の提出を求め、予算審査に向けての検証と論点整理を行う。
- ⑫ **ステップ11 「当初予算案の審査」** 令和6年第1回定例会開会会期中
 令和6年第1回定例会において、当初予算案を審査する。
- ⑬ **ステップ12 「行政評価全体の振り返り」** 別途 日程調整
 ア 各分科会で日程を確保し、全体の取り組みに関し振り返りを行う。
 イ 予算決算準備会を開催し、各分科会での振り返りから課題等を抽出し、次年度への改善点等としてまとめる。
 ウ 予算決算委員会全体会で共有する。

(3) 日程

- ① 資料提供 企画課から議会事務局へ 7月14日(金)期限(最終の期限)
 → 7月14日(金)(最終の期限) 議会事務局から各議員へ配布

② ステップ別の日程

評価のステップ	担当等	期日等
事前準備	各分科会	ステップ1までに実施
ステップ1 「執行機関からの説明①」	各分科会 連合会議	7月20日(木) 21日(金)
ステップ2 「戦略計画に対する個々の議員による評価」		提出日：7月28日(金)
ステップ3 「分科会による意見集約」 「執行機関からの説明②」	各分科会 連合会議	8月3日(木) 4日(金)
ステップ4 「事務事業評価」	各分科会	各分科会で日程調整
ステップ5 「分科会での検討経過協議・確認」	前期全体会	8月30日(水)
ステップ6 「評価提言内容の取りまとめと執行機関との意見交換」	各分科会 (連合審査会)	9月6日(水)～20日(水) 各委員会の審査日、予備日活用
ステップ7 「提言内容の調整と全体会での確認」	予決算委員会	9月29日(金)を期限 ※日程は後日調整
ステップ8 「提言」		ステップ7以降 日程調整
ステップ9 「ステップ8までの振り返り」	各分科会 準備会 全体会	別途 日程調整
ステップ10 「提言後の進行管理」	各分科会	～令和6年第1回定例会開会日
ステップ11 「当初予算案の審査」	各分科会	令和6年第1回定例会会期中
ステップ11 「行政評価全体の振り返り」	各分科会 準備会 全体会	別途 日程調整

(4) 基本目標の担当

基本目標 1	稼ぎ、安心して働ける「魅力ある産業」をつくる	産業建設委員会
基本目標 2	飯田の魅力を発信し、つながる人を増やし、飯田市への人の流れをつくる	産業建設委員会 総務委員会
基本目標 3	“結いの心”に根ざす教育を実践し、豊かな心とリニア時代を生きる力を育む	社会文教委員会
基本目標 4	豊かな「学びの土壌」を活かした「学習と交流」を進め、飯田の自治を担い、可能性を広げられる人材を育む	社会文教委員会
基本目標 5	文化・スポーツを通じて人と地域の輝き・うるおいをつくる	社会文教委員会
基本目標 6	結婚・出産・子育ての希望をかなえる	社会文教委員会
基本目標 7	「市民総健康」と「生涯現役」をめざす	社会文教委員会
基本目標 8	共に支え合い、自ら行動する地域福祉を充実させる	社会文教委員会
基本目標 9	20 地区が輝く活き活きとした地域づくりを地域主体に進める	総務委員会
基本目標 10	個性を尊重し、多様な価値観を認め合い、活動の場を広げる	総務委員会
基本目標 11	地球環境への配慮が当たり前の暮らしとまちづくりの推進	総務委員会
基本目標 12	災害や社会リスクに備え、社会基盤を強化し、地域防災力の向上を図る	総務委員会 産業建設委員会
基本目標 13	リニア・三遠南信時代を支える都市基盤を整備する	産業建設委員会 リニア推進特別

※明朝体で記載の基本目標は、令和4年度評価対象とした目標

ゴシック体で記載の基本目標は、令和5年度評価対象とする目標

評価対象とする基本目標は各分科会において決定する。

2023(令和5)年度「議会による行政評価」の評価の視点について

	<p>1 基本目標及び戦略計画の評価</p> <p>基本目標について、所管する分科会(連合審査を含む)において実施する。</p> <p>2022年度「基本目標評価シート」及び「年度戦略評価シートの説明を受けた後、以下の「評価の視点」をもって評価及び検証する。</p> <p>【評価の視点】</p> <p>未来デザインを上から下へ俯瞰する視点で方向性・妥当性を、下から上へ仰視する視点で目標達成への貢献度・成果などを、視点を上から下へ、下から上へ循環させて評価を進める。</p> <p>2022年度の実績を踏まえ、2023年度の方向性・妥当性、社会的環境変化への適応状況などを確認する。</p> <p>2022年度の取り組みを評価及び検証すると共に、進捗状況確認指標、重要業績評価指標(KPI)における前年度の評価を行う。</p>
2022年度実績評価	<p>2 事務事業の評価</p> <p>基本目標・年度戦略の評価において課題があると思われる項目に関連する戦略的(政策的)事務事業を選定する。あわせて(必要に応じ)、例えば各常任委員会の所管事務調査に関わりの深い政策的事務事業等を選定する。</p> <p>【評価の視点】</p> <p>戦略的事務事業は、年度戦略(小戦略)を実現するために妥当か。また、実現するために見直しや改善点はあるか。戦略計画(年度戦略)への貢献度、達成度を向上させる視点から評価を進める。</p> <p>政策的事務事業は、各常任委員会の課題認識や、必要に応じ分野別計画における位置づけ等を確認しつつ論点抽出を行った上で、見直し、改善点等の評価を進める。</p> <p>政策的(戦略的)事務事業の評価にあたっては、基本目標達成への有効性、分野別計画推進などの観点から「継続」「改善」(予算反映を求めるもの・予算反映を求めないもの)「廃止」など、事業の今後の方向性をどう考えるかに視点を置く。</p>

- ① 評価にあたっては、各区分の「評価シート」に記載されている執行機関側の自己評価が妥当であるか、について確認しながら進める。
- ② 基本目標及び戦略計画(小戦略)の達成度を、進捗状況確認指標を中心に、重要業績評価指標(KPI)、参考資料も用いて評価を進める。
- ③ 基本目標及び戦略計画(小戦略)の評価及び検証のため、必要に応じて事務事業をステップ1(成果説明)において確認することが考えられるが、決算審査で行う事務事業の成果評価にならないよう留意する。
- ④ 事務事業は、戦略計画(小戦略)に繋がっている関係性を見ながら決算審査において評価を行うが、経常経費などの事務事業は一括して説明を受けることで、決算審査としての審査機能を保持する。

**「いいだ未来デザイン 2028」の
中期計画最終年へ向けて**

**～令和5年度「議会による行政評価」からの
評価及び提言書～**

令和 5 年 9 月 29 日

飯 田 市 議 会

令和5年度「議会による行政評価」からの評価及び提言書 構成

前書き

令和5年度「議会による行政評価」の目的及び基本方針
評価対象別の「評価の視点及びポイント」
評価の対象とした基本目標及び事務事業
事務事業評価結果の概要

「いいだ未来デザイン 2028」基本目標別目次

基本目標 1	稼ぎ、安心して働ける「魅力ある産業」をつくる	P 1～P 4
	関連事務事業	P 5～P 8
基本目標 2	飯田の魅力を発信し、つながる人を増やし、飯田市への人の流れをつくる	
	関連事務事業	P 9
基本目標 3	“結いの心”に根ざす教育を実践し、豊かな心とリニア時代を生きる力を育む	P 10～P 13
	関連事務事業	P 14～P 15
基本目標 4	豊かな「学びの土壌」を活かした「学習と交流」を進め、飯田の自治を担い、可能性を広げられる人材を育む	P 16～P 18
基本目標 6	結婚・出産・子育ての希望をかなえる	P 19～P 20
	関連事務事業	P 21
基本目標 7	「市民総健康」と「生涯現役」をめざす	
	関連事務事業【政策的事務事業含む】	P 22～P 24
基本目標 8	共に支え合い、自ら行動する地域福祉を充実させる	
	関連事務事業	P 25～P 26
基本目標 9	20地区が輝く生き生きとした地域づくりを地域主体に進める	P 27～P 29
	関連事務事業	P 30～P 31
基本目標 10	個性を尊重し、多様な価値観を認め合い、活動の場を広げる	P 32～P 34
	関連事務事業	P 35
基本目標 11	地球環境への配慮が当たり前の暮らしとまちづくりの推進	
	関連事務事業	P 36
基本目標 13	リニア・三遠南信時代を支える都市基盤を整備する	P 37～P 40
	関連事務事業	P 41～P 42

令和5年度の「議会による行政評価」は、『令和5年度 議会による行政評価実施要項』に基づき、「執行機関の活動を監視することによって、適正な行政運営の確保に努める」、「議会として議決事件とした基本構想基本計画の進行管理に関与することで、議会としての責任を果たす」ことを目的に、「いいだ未来デザイン2028」の戦略計画を中心に基本目標ごとに評価及び検証を行った。

今年度は「いいだ未来デザイン2028」の中期計画、中間期審査（3年目）にあたるため、令和4年度の評価報告等を受けた後、4年度に評価対象としなかった基本目標を選定することを原則とし、各分科会において評価対象とする基本目標を選定した。

また、事務事業評価については、各常任委員会の所管事務調査に関わりの深い事務事業、基本目標・年度戦略の評価において課題があると思われる項目に関連する事務事業等を選定し、決算審査とは別に評価を行うこととした。これは、事務事業が予算決算に直結しており「議会の政策サイクルを回す」という視点「方向性の妥当性など上から下へ俯瞰する視点」及び「目標達成への貢献度や効果など下から上へ仰視する視点」を重視したいとの考えに基づくものである。

なお、評価については、以下の視点で行い、基本目標別にまとめた。

評価対象	評価の視点及びポイント
1 基本目標	<p>基本目標について、所管する分科会（連合審査を含む）において実施。令和4年度「基本目標評価シート」及び「年度戦略評価シート」の説明を受けた後、以下の「評価の視点」をもって評価及び検証する。</p> <p>【評価の視点】</p> <p>(1) 未来デザインを上から下へ俯瞰する視点で方向性・妥当性を、下から上へ仰視する視点で目標達成への貢献度・成果などを、視点を上から下へ、下から上へ循環させて評価を進める。</p> <p>(2) 4年度の実績を踏まえ、5年度の方向性・妥当性、社会的環境変化への適応状況などを確認する。</p> <p>(3) 4年度の取り組みを評価及び検証すると共に、進捗状況確指標、重要業績評価指標(KPI)における前年度の評価を行う。</p>
2 事務事業	<p>基本目標・年度戦略の評価において課題があると思われる項目に関連する戦略的（政策的）事務事業を選定する。あわせて（必要に応じ）、例えば各常任委員会の所管事務調査に関わりの深い政策的事務事業等を選定する。</p> <p>【評価の視点】</p> <p>(1) 戦略的事務事業は、年度戦略（小戦略）を実現するために妥当か。また、実現するために見直しや改善点はあるか。戦略計画（年度戦略）への貢献度、達成度を向上させる視点から評価を進める。</p> <p>(2) 政策的事務事業は、各常任委員会の課題認識や、必要に応じ分野別計画における位置づけ等を確認しつつ論点抽出を行った上で、見直し、改善点等の評価を進める。</p> <p>(3) 政策的（戦略的）事務事業の評価にあたっては、基本目標達成への有効性、分野別計画推進などの観点から「継続」、「改善」（予算反映を求めるもの・予算反映を求めないもの）、「抜本的な見直し」（廃止を含む）など、事業の今後の方向性をどう考えるかに視点を置く。</p>

■評価の対象とした基本目標及び事務事業

評価の対象とした基本目標		7目標
基本目標 1	稼ぎ、安心して働ける「魅力ある産業」をつくる	【産業建設分科会】
基本目標 3	“結いの心”に根ざす教育を実践し、豊かな心とリニア時代を生きる力を育む	【社会文教分科会】
基本目標 4	豊かな「学びの土壌」を活かした「学習と交流」を進め、飯田の自治を担い、可能性を広げられる人材を育む	【社会文教分科会】
基本目標 6	結婚・出産・子育ての希望をかなえる	【社会文教分科会】
基本目標 9	20 地区が輝く生き活きとした地域づくりを地域主体に進める	【総務分科会】
基本目標 10	個性を尊重し、多様な価値観を認め合い、活動の場を広げる	【総務分科会】
基本目標 13	リニア・三遠南信時代を支える都市基盤を整備する	【産業建設・リニア推進分科会】

評価の対象とした事務事業		32事業
事業NO.	事務事業名	分科会
(基本目標 1 関連)		
155	担い手確保・育成支援事業	【産業建設分科会】
159	元気な農村づくり推進事業	【産業建設分科会】
161	農畜産物ブランド向上・6次産業化推進事業	【産業建設分科会】
173	森林づくり推進事業	【産業建設分科会】
179	森林資源活用推進事業	【産業建設分科会】
191	観光誘客推進事業	【産業建設分科会】
200	産業振興事業	【産業建設分科会】
210	地域経済循環推進事業	【産業建設分科会】
(基本目標 2 関連)		
20	移住定住推進事業	【総務分科会】
(基本目標 3 関連)		
245	人間関係づくり支援事業	【社会文教分科会】
256	特別支援教育支援事業	【社会文教分科会】
262	小中連携・一貫教育推進事業	【社会文教分科会】
(基本目標 6 関連)		
101	児童発達支援センター事業	【社会文教分科会】

(次ページに続く)

評価の対象とした事務事業 (続き)		
事業NO.	事務事業名	分科会
(基本目標7 関連)		
129	市民の健康づくり事業	【社会文教分科会】
132	高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施事業	【社会文教分科会】
317	介護予防・生活支援サービス事業	【社会文教分科会】
318	一般介護予防事業 【政策的事務事業】	【社会文教分科会】
319	高齢者健康づくり事業	【社会文教分科会】
(基本目標8 関連)		
65	地域福祉推進事業	【社会文教分科会】
73	障害福祉推進事業	【社会文教分科会】
90	重層的支援体制整備事業	【社会文教分科会】
(基本目標9 関連)		
9	地域自治組織運営事業	【総務分科会】
10	地域自治組織助成事業	【総務分科会】
13	20 地区田舎へ還ろう戦略支援事業	【総務分科会】
17	中山間地域振興事業	【総務分科会】
(基本目標10 関連)		
22	人権・男女共同参画推進事業	【総務分科会】
23	多文化共生社会推進事業	【総務分科会】
(基本目標11 関連)		
141	地域エネルギー普及事業	【総務分科会】
143	脱炭素先行地域構築事業	【総務分科会】
(基本目標13 関連)		
34	リニア二次交通整備事業	【産業建設・リニア推進分科会】
35	交通体系整備事業	【産業建設・リニア推進分科会】
47	リニア駅周辺整備事業	【産業建設・リニア推進分科会】

事務事業評価結果（次年度以降に対する判断）の概要				
対象事業数	継続	改善 予算への反映有	改善 予算への反映無	抜本的な見直し
32	13	1	17	

※事業No.317は、社会文教委員会の所管事務調査で調査継続中。

基本目標 1 稼ぎ、安心して働ける「魅力ある産業」をつくる

1 基本目標の2022年度の成果評価

(1) 基本目標

評価のポイント	未来デザインを上から下へ俯瞰する視点で方向性・妥当性の評価
①基本目標のねらいと取り巻く状況の認識は妥当か	<p>【評価】 <input type="checkbox"/> 評価する <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当 <input type="checkbox"/> 評価できない 理由等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 人口減少社会と向き合う視点で「若者」が帰って来られる地域社会構築を基礎におきつつ、地域経済循環の推進や農林業の振興、多様な働き方などの認識は妥当である。また、リニア中央新幹線、三遠南信自動車道の開通を見据えた認識は妥当である。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 一方で、地域経済循環の推進を重要としているが、その状況を表す指標が確立できていない。企業側の取り組みと共に消費者の意識への働きかけが求められるが、その為には現状と将来のあるべき姿を数値化、見える化して理解を広げる必要がある。一部の数値であっても、早い段階で指標が定期的に公開されるよう、尚一層の努力を望む。
評価のポイント	戦略計画との関係性、目標達成への貢献度・成果の評価
②取り組みの内容をどう評価するか	<p>【評価】 <input type="checkbox"/> 評価する <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当 <input type="checkbox"/> 評価できない 理由等)</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> インバウンドも含め旅行者がコロナ前に戻りつつあり、観光産業も景況感は上向きになってきている。リニア・三遠南信道のメリットを最大限活かすには、当地域における観光産業の充実発展は欠かせないが、人手不足への対応も含めて、更に取り組みを強化していくことが重要。
評価のポイント	基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等
③進捗状況確認指標、重要業績評価指標（KPI）、参考資料等は、戦略の達成度、進捗状況を測る指標として妥当か	<p>【評価】 <input type="checkbox"/> 評価する <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当 <input type="checkbox"/> 評価できない 理由等)</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> Step 1 説明時において、目標値が累計で示されているのに、進捗数値は単年度となっていたり、作成の時点が違う資料について、互換性のある内容の表記が適切でなかったりする項目が散見していた。進捗状況確認指標は、行政評価を行う上で大変重要な指標であり、慎重な資料作成をお願いしたい。 時点の違う資料についても、KPI については、最新の数値に統一をお願いしたい。 最新の地域経済循環率、またはそれに類似する統計があれば指標に加えていくと良い。
評価のポイント	方向性の妥当性、社会変化への適応状況の評価
④実績を踏まえ2023年度の方向性・妥当性・社会的環境変化への適応状況	<p>【評価】 <input type="checkbox"/> 評価する <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当 <input type="checkbox"/> 評価できない 理由等)</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在、さまざまなKPIや指標により検証を行っているが、「魅力ある産業」を考えた時、RESAS 地域経済循環マップ（2018年）から算出された飯田市の地域経済循環率 89.6%が全体を包含した重要な指標になっていると感じている。この指標を基盤として、農業、林業、商業、工業、観光等の業種や品目などの詳細、全体に対しての関連性などを紐づけしていくと、

	<p>飯田市としての方向性が更に明確になってくると感じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境文化都市を掲げる飯田市として、環境問題やSDGsへの積極的な取り組みを行う企業が地域内で認められて、発展に繋がるような仕組みづくりを確立していくことが重要。
--	---

(2) 戦略計画

年度戦略 (小戦略)	1-①	地域産業の育成による高付加価値化
評価のポイント		基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等
戦略計画は基本目標の達成のために、その役割を果たしたか	<p>【成果】 <input type="checkbox"/> 評価する <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当 <input type="checkbox"/> 評価できない 理由等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ISO/IEC17025 試験所認定を受けたことにより、燃焼・耐火性試験の正式な受託につながったこと、ReAMo プロジェクト事業への参画ができたこと、南信州地域資源活用商品開発オープンイノベーションプラットフォーム構築事業（OIP事業）において、産官学民の関係者が地域資源をテーマに交流、連携する取り組みにつながったことなどは評価できる。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・更なる地域ブランドの情報発信、また地域資源の発掘に取り組まれない。 ・コロナ禍での状況を乗り越えられるような、農畜産物の高付加価値化や6次産業化など、多くの事業者が地域資源を活用した商品開発や販売に連携協働し取り組んでいけるような施策展開に期待する。 	

年度戦略 (小戦略)	1-②	地域経済循環の推進
評価のポイント		基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等
戦略計画は基本目標の達成のために、その役割を果たしたか	<p>【成果】 <input type="checkbox"/> 評価する <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当 <input type="checkbox"/> 評価できない 理由等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南信州地産地消推進協議会と連携し、「まちの八百屋システム」の仕組みづくりができたこと、地域製品の購入意向の実態を把握するため新たに地域消費推進調査を実施したことは評価できる。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一方で、地域内経済循環には消費者の行動も重要になるが、これらの取り組みは意識調査に留まっている。消費者への重要性を理解していただくための施策展開が必要。 ・地域内経済を循環させるための一つの手法として、地域通貨（デジタル）について検討されたい。 	

年度戦略 (小戦略)	1-③	事業継続と新たなビジネスモデルの創出、事業再構築、起業家の育成
評価のポイント		基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等
戦略計画は基本目標の達成のために、その役割を果たしたか	<p>【成果】 <input type="checkbox"/> 評価する <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当 <input type="checkbox"/> 評価できない 理由等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・起業家ビジネスプランコンペティションは、新たな起業家・新事業の掘り起こしにつながっていること、事業承継に対する事業者の意識調査（アンケート調査）を行ったことは評価できる。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一方で、高齢の代表者が30%以上を占めており、後継者不足など課題が山積みされている中、早急な施策の展開が必要。 	

年度戦略 (小戦略)	1-④	地域産業を支える担い手・企業人材の育成・確保
評価のポイント	基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等	
戦略計画は基本目標の達成のために、その役割を果たしたか	<p>【成果】 <input type="checkbox"/> 評価する <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当 <input type="checkbox"/> 評価できない 理由等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ KPI の指標となっている飯田産業技術大学の受講者数を伸ばしていること、デジタルものづくり工房「ファブスタ★」を利用し、操作講習、小中学校向けの体験講座を開催し、ものづくりの人材育成につなげていることは評価できる。 ・ ワークライフバランス推進のためのセミナーの開催、KPI の指標となっている長野県の認証制度「職場いきいきアドバイスカンパニー認証企業数」を2社増加させたことは評価できる。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一方で、若い女性が一度転出してしまうと当地域へ戻ってこない傾向があると認識している。なぜ、そうした状況になってしまうのか、更にデータを深掘した分析が必要。 ・ 現在、ワークライフバランス推進に係る認定制度として、子育てに係る国の認定制度「くるみん」、女性活躍に係る国の認定制度「えるぼし」、長野県の認証制度「職場いきいきアドバイスカンパニー」等があるが、市内の事業所の状況を考えると少しハードルが高いように感じる。小規模な企業も取り組むことができ、それを市が支援できるような市独自の認定制度を検討していくことが必要。 ・ 「3大都市圏等からの移住就農を促すため」とあるが、今後の方向性として、ターゲットを3大都市圏に絞ることによる有効性をしっかり検証していくことが必要。 	

年度戦略 (小戦略)	1-⑤	地域に根差した農林業の推進
評価のポイント	基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等	
戦略計画は基本目標の達成のために、その役割を果たしたか	<p>【成果】 <input type="checkbox"/> 評価する <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当 <input type="checkbox"/> 評価できない 理由等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ KPI の指標となっている1日農業バイトマッチング件数を増加させていること、地形が急峻で路網整備ができず切捨て間伐となっている森林について、搬出間伐に転換することを目指し、架線集材の調査・検証を行ったことは評価できる。 ・ 「環境に配慮した農業研究プロジェクト」の立ち上げ、有機農業啓発映画の上映会の開催、学校・保育園給食に有機野菜を一部導入する試みの実施、市田柿生産農家への支援の取り組みは評価できる。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一方で、農林業従事者や技術者の育成、人材確保につながる施策（例えば資格取得の支援、幼少期の学習・体験活動）など、更なる取り組みが必要。 ・ 森林経営管理制度を推進する上で、令和3年度から複数年かけて順次、森林所有者等を対象に「意向調査」を実施していると認識している。森林を集約化、団地化していくためには、境界や所有者不明などの課題を解決していくことが必要。 ・ 竹林整備を推進するため、竹林を資源として考え、竹を原材料とした地域独自の製品化を含めた活用の可能性を検討されたい。 	

年度戦略 (小戦略)	1-⑥	アフターコロナの観光産業の推進
評価のポイント	基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等	
戦略計画は基本目標の達成のために、その役割を果たしたか	<p>【成果】 <input type="checkbox"/> 評価する <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当 <input type="checkbox"/> 評価できない 理由等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍において大きな影響を受けつつも、天龍峡や遠山郷などを中心として、観光産業推進に取り組まれたことは評価できる。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そらさんぽ天龍峡をどう活かすか、遊歩道や温泉交流館を活用した「クアオルト(保養地)」の研究に取り組んではどうか。(山形県上山市では、都市部の大企業の従業員が健康増進のため定期的に訪れている事例あり) ・新たな旅行の形態として「アドベンチャーツーリズム」というものがあり、海外では一定程度浸透している。①自然に触れ合う、②文化交流をする、③ウォークやカヤックなど身体的アクティビティーをする、この3項目のうち2つを満たしていればこの旅行形態に該当する。飯田下伊那地域を視野に入れ、研究に取り組んではどうか。 	

年度戦略 (小戦略)	1-⑦	企業誘致、オフィス誘致の推進
評価のポイント	基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等	
戦略計画は基本目標の達成のために、その役割を果たしたか	<p>【成果】 <input type="checkbox"/> 評価する <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当 <input type="checkbox"/> 評価できない 理由等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・龍江インター産業団地計画地において、リニア発生土を活用(事業費軽減)した第2造成地及び周辺道路の整備が完了したこと、誘致促進に取り組んでいることは評価できる。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後もリニア・三遠南信自動車道全通(主要道路網整備も含む)を見据えた、戦略的な企業誘致に期待したい。 ・今後の方向性として、企業誘致については、通常の広報に加え、人脈やネットなどあらゆる手段を駆使し取り組まれない。 	

評価のポイント	基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等	
実績を踏まえ2023年度の方向性・妥当性・社会的環境変化への適応状況	<p>【評価】 <input type="checkbox"/> 評価する <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当 <input type="checkbox"/> 評価できない 理由等)</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アフターコロナを始めとして環境が急変するかも知れない現状において、各年度戦略で言及した点について、真摯な対応を望む。 	

事業No.	155	事務事業名	担い手確保・育成支援事業
基本目標	1	稼ぎ、安心して働ける「魅力ある産業」をつくる	
小戦略	④ ⑤	地域産業を支える担い手・企業人材の育成・確保 地域に根差した農林業の推進	

「評価視点・評価のポイント」からの 評価できる点、今後に向けた課題・方向性

【評価】

- ・年度戦略（小戦略）を実現するために、概ね妥当と評価する。
- ・活動指標の4項目のうち3項目で実績が計画値を上回ると共に、実績も伸びており評価できる。特に JA と連携した1日農業バイトのマッチング件数の増加は、繁忙期の労働力確保につながっており評価する。

【見直し・改善点等】

- ・今後も兼業農業従事者への支援、1日農業バイト参加者（バイトとはいえ農業に関心がある方）とのつながりや啓発、担い手確保を視野に入れた交流会や体験会の開催など、更なる就農支援に取り組まれたい。
- ・活動指標の新規就農者数が、自営と法人就農が一括りで計上されている。今後の動向を検証していく上では、それぞれに計画を立て実績をみていく必要がある。

次年度以降に対する判断

継 続

事業No.	159	事務事業名	元気な農村づくり推進事業
基本目標	1	稼ぎ、安心して働ける「魅力ある産業」をつくる	
小戦略	⑤	地域に根差した農林業の推進	

「評価視点・評価のポイント」からの 評価できる点、今後に向けた課題・方向性

【評価】

- ・年度戦略（小戦略）を実現するために、概ね妥当と評価する。
- ・農村女性団体への支援など、女性の活動に視点をあてた点、下伊那農業高等学校と連携した調理実習などは評価する。

【見直し・改善点等】

- ・市民農園については、継続的な運営ができていと認識しているが、今後は各地区や団体での市民農園等の取り組みも視野に入れた事業展開、更なる遊休農地の活用に取り組まれたい。
- ・団体への固定化した取組み（研修、視察の支援）を見直し、高校生世代などを含めた交流の場の設定、「伝統野菜」など（例えば下栗二度芋、千代ネギ、小野子人参など）の情報発信、生産者の情報交換など、更なる展開を図られたい。

次年度以降に対する判断

継 続

事業No.	161	事務事業名	農畜産物ブランド向上・6次産業化推進事業
基本目標	1	稼ぎ、安心して働ける「魅力ある産業」をつくる	
小戦略	① ② ⑤	地域産業の育成による高付加価値化 地域経済循環の推進 地域に根差した農林業の推進	

「評価視点・評価のポイント」からの 評価できる点、今後に向けた課題・方向性

【評価】

- ・年度戦略（小戦略）を実現するために、概ね妥当と評価する。
- ・市田柿の出荷量が増加傾向にあること、南信州地産地消推進協議会と連携し「まちの八百屋システム」の仕組みづくりができたことは評価する。

【見直し・改善点等】

- ・南信州牛が関西地方（京都）での評価が高く、利用が多いことを多くの市民は知らない。南信州牛の価値を皆が共有できる、シビックプライドにつながる施策を展開されたい。
- ・域産域消の食育店認定事業については、認定されてのメリットの明確化（ステッカー配布だけでなく、認定店の更なる広報や域産域消事業の推進など）が必要。また、消費者に対して域産域消の重要性を理解してもらえるような施策の展開に取り組まれない。

次年度以降に対する判断

改善
(予算反映無)

【判断の理由】

- ・地域内経済の循環の観点からも、食育店認定店舗数や八百屋機能を活用した店舗数については、更に高い目標を掲げ、域産域消の推進に取り組まれない。

事業No.	173	事務事業名	森林づくり推進事業
基本目標	1	稼ぎ、安心して働ける「魅力ある産業」をつくる	
小戦略	⑤	地域に根差した農林業の推進	

「評価視点・評価のポイント」からの 評価できる点、今後に向けた課題・方向性

【評価】

- ・年度戦略（小戦略）を実現するために、概ね妥当と評価する。
- ・森林整備を行った民有林所有者への支援を行ったこと、路網整備ができず切捨て間伐となっている森林について、架線集材により搬出することで林地残材の解消や木材活用につなげる効果を確認できたことは評価する。

【見直し・改善点等】

- ・一層の木材のカスケード利用の推進に取り組まれない。
- ・森林の維持管理、担い手不足の解消へつなげるため「いいだ森林学校」等の活用、小中学校と連携した施策の展開を図られたい。

次年度以降に対する判断

継続

事業No.	179	事務事業名	森林資源活用推進事業
基本目標	1	稼ぎ、安心して働ける「魅力ある産業」をつくる	
小戦略	⑤	地域に根差した農林業の推進	

「評価視点・評価のポイント」からの 評価できる点、今後に向けた課題・方向性

【評価】

- ・年度戦略（小戦略）を実現するために、概ね妥当と評価する。
- ・飯田版 ZEH 仕様住宅に対する支援を拡充したこと、飯田市産材利用啓発活動補助金制度について工務店や設計事務所等に周知を行ったこと、飯田市産材を使って建てた住宅戸数の実績が計画を上回っている点などは評価する。

【見直し・改善点等】

- ・一方で、現状は地元産材の利用が低く、安価な外材や他地域材の利用が多いため、住宅の新築・リフォームに対する補助金が予算額の半分にも届かない現状がある。森林整備や地域産材利用への理解を一層深めていただけるような施策の展開を図られたい。

次年度以降に対する判断

継 続

事業No.	191	事務事業名	観光誘客推進事業
基本目標	1	稼ぎ、安心して働ける「魅力ある産業」をつくる	
小戦略	⑥	アフターコロナの観光産業の推進	

「評価視点・評価のポイント」からの 評価できる点、今後に向けた課題・方向性

【評価】

- ・年度戦略（小戦略）を実現するために、概ね妥当と評価する。
- ・令和4年度はまだコロナの影響が残っていたため、活動指標の実績の多くが計画値を下回っているものの、(株)南信州観光公社と連携し地域資源を活用したツアーを実施したこと、ツアー・オブ・ジャパンを地元等の協力を得て3年ぶりに開催できたことは評価する。

【見直し・改善点等】

- ・一方で、農家民泊の受け入れ農家数が、R3は100件、R4は54件と激減していることは大きな課題。コロナ禍の影響や受け入れ農家の高齢化などさまざまな要因が考えられるが、グリーンツーリズムや体験教育旅行など、飯田市が農家民泊をはじめた原点に立ち返り、現事業にマッチした新たな受け入れ農家の発掘など、基盤整備に取り組まれない。

次年度以降に対する判断

継 続

事業No.	200	事務事業名	産業振興事業
基本目標	1	稼ぎ、安心して働ける「魅力ある産業」をつくる	
小戦略	① ② ③	地域産業の育成による高付加価値化 地域経済循環の推進 事業継続と新たなビジネスモデルの創出、事業再構築、起業家の育成	

「評価視点・評価のポイント」からの 評価できる点、今後に向けた課題・方向性

【評価】

- ・年度戦略（小戦略）を実現するために、概ね妥当と評価する。
- ・ネスク飯田の受注額がコロナ前の水準を確保できたこと、製造業の展示商談会への出展数が前年度を大きく上回ったことなどは評価する。

【見直し・改善点等】

- ・オープンイノベーションプラットフォーム構築事業の交流、連携をきっかけとして、今後更に多くの事業者が地域資源を活用した商品開発や販売に、連携協働し取り組んでいけるような施策を展開されたい。

次年度以降に対する判断

継 続

事業No.	210	事務事業名	地域経済循環推進事業
基本目標	1	稼ぎ、安心して働ける「魅力ある産業」をつくる	
小戦略	②	地域経済循環の推進	

「評価視点・評価のポイント」からの 評価できる点、今後に向けた課題・方向性

【評価】

- ・年度戦略（小戦略）を実現するために、概ね妥当と評価する。
- ・地域製品の購入意向の実態を把握するため、新たに地域消費推進調査を実施したことは評価する。

【見直し・改善点等】

- ・基本目標である「魅力ある産業」を考えた時、RESAS 地域経済循環マップ（2018年）から算出された飯田市の地域経済循環率 89.6%が全体を包含した重要な指標になっていると認識している。この指標を基盤として、農業、林業、商業、工業、観光等の業種や品目などの詳細、全体に対する関連性などを紐づけしていくと、地域経済活性化プログラムの方向性が更に明確になると認識する。最新の地域経済循環率、またはそれに類似する統計があれば指標に加えられたい。

次年度以降に対する判断

改 善
(予算反映有)

【判断の理由】

- ・正確な実態把握と当市の現状を示す指標づくりは喫緊の課題であり、そのための予算計上も必要と認識。
予算は最新の地域経済循環率、または類似する統計数値を把握するための費用（委託料・使用料）を想定。

基本目標	2	飯田の魅力を発信し、つながる人を増やし、飯田市への人の流れをつくる
-------------	----------	--

事業No.	20	事務事業名	移住定住推進事業
基本目標	2	飯田の魅力を発信し、つながる人を増やし、飯田市への人の流れをつくる	
小戦略	③	「結い」による多様な暮らしを応援する移住定住の推進	

「評価視点・評価のポイント」からの 評価できる点、今後に向けた課題・方向性

<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度戦略（小戦略）を実現するために、活動指標が「相談」「実績」とともに増加傾向であるのは評価できる。 <p>【見直し・改善点等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移住者が飯田から離れる実績を可能な範囲で把握できる仕組みを構築し、「なぜ飯田から離れるのか」という生の声を蓄積し、今後の事業に活かせるよう取り組まれない。 ・今後の課題として、移住を希望している人にとって魅力的だと思われる飯田市の良さを各地区別（地区別にアピールするところ）に拾い出し、飯田市のアピールポイントとして紹介されたい。

次年度以降に対する判断

<p>改善 (予算反映無)</p>	<p>【判断の理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これからの移住政策として、積極的な移住希望者だけでなく、潜在的な移住予備軍など、対象となる人たちの欲求にも目を向け、専門家の分析や指導なども仰いだらどうか。
------------------------------	---

1 基本目標の2022年度の成果評価

(1) 基本目標

評価のポイント	未来デザインを上から下へ俯瞰する視点で方向性・妥当性の評価
①基本目標のねらいと取り巻く状況の認識は妥当か	<p>【評価】 <input type="checkbox"/>評価する <input checked="" type="checkbox"/>概ね妥当 <input type="checkbox"/>評価できない</p> <p>理由等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本目標が抽象的なために方向性がかみにくいですが、認識としては評価できる。 田舎にしながら、これからの時代を生きぬく力をはぐくむ人材育成の視点は評価する。(ローカルからグローバルにつながる人材育成) (人材の育成を目指した視点は地域づくりに繋がるものであり評価する。) <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> なし
評価のポイント	戦略計画との関係性、目標達成への貢献度・成果の評価
②取り組みの内容をどう評価するか	<p>【評価】 <input type="checkbox"/>評価する <input checked="" type="checkbox"/>概ね妥当 <input type="checkbox"/>評価できない</p> <p>理由等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 進捗状況確認指標からは「評価できない」が、◆の達成状況は8つの小戦略の成果からすると概ね妥当。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> なし
評価のポイント	基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等
③進捗状況確認指標、重要業績評価指標 (KPI)、参考資料等は、戦略の達成度、進捗状況を測る指標として妥当か	<p>【評価】 <input type="checkbox"/>評価する <input checked="" type="checkbox"/>概ね妥当 <input type="checkbox"/>評価できない</p> <p>理由等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 進捗状況確認指標、補足指標を見る限り2年が過ぎた時点でほとんどの目標が達成されていない。しかし、数字でカウントできない部分があると判断する。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 上がり続けている不登校児童生徒数。在籍比目標値は前年度以下という考え方で良いか。
評価のポイント	方向性の妥当性、社会変化への適応状況の評価
④実績を踏まえ2023年度の方角性・妥当性・社会的環境変化への適応状況	<p>【評価】 <input type="checkbox"/>評価する <input type="checkbox"/>概ね妥当 <input type="checkbox"/>評価できない</p> <p>【課題】</p>

(2) 戦略計画

年度戦略 (小戦略)	3-①	学力保障・学力の向上
評価のポイント		基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等
戦略計画は基本目標の達成のために、その役割を果たしたか		<p>【成果】 <input type="checkbox"/>評価する <input checked="" type="checkbox"/>概ね妥当 <input type="checkbox"/>評価できない</p> <p>理由等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT教育と情報モラル教育の双方を推進している。 同時共同編集の手法は、評価できる。これは将来にわたって活用出来る事なので様々な場面での導入を目指してもらいたい。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ICTを児童生徒が自己に合わせて使えるよう取り組まれたい。 教職員の負担軽減を図りながら、ICTの有効利用につながる体制強化を進められたい。

年度戦略 (小戦略)	3-②	温かな人間関係づくりと誰ひとり取り残さない教育や支援
評価のポイント		基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等
戦略計画は基本目標の達成のために、その役割を果たしたか		<p>【成果】 <input type="checkbox"/> 評価する <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当 <input type="checkbox"/> 評価できない 理由等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「中間教室」の取組や「びーいんぐ」のムトスぷらざへの開設を評価する。 ・令和4年度から国のモデル事業を取り入れ、インクルーシブ教育システム構築に向け全ての教職員を対象に取り組んでいることは評価する。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中連携・一貫教育の目的を明確にされたい。 ・特別な支援を必要とする、児童生徒や家庭への「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」が、「担当する組織」が変わっても継続性をもてるシステムを構築されたい。 ・奨学金の拡充は評価する。今後、さらなる拡充支援を検討されたい。 ・不登校に至る前の支援を強化されたい。

年度戦略 (小戦略)	3-③	飯田コミュニティスクールを活かした地域・学校・家庭での教育の推進
評価のポイント		基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等
戦略計画は基本目標の達成のために、その役割を果たしたか		<p>【成果】 <input type="checkbox"/> 評価する <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当 <input type="checkbox"/> 評価できない 理由等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目に見える動きとして形となってきている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「家庭の教育力の低下」は認識する。学校、家庭、地域が連携し一体となってどのように取り組むか。

年度戦略 (小戦略)	3-④	食育の推進
評価のポイント		基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等
戦略計画は基本目標の達成のために、その役割を果たしたか		<p>【成果】 <input type="checkbox"/> 評価する <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当 <input type="checkbox"/> 評価できない 理由等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主要野菜の地元産利用の実態が子どもに理解されつつある。 ・給食感想ノートの取り組みや、食の大切さを伝えるために、調理中の様子をライブ配信する取り組みを評価する。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主要10品目の地元産農産物の利用率をさらに高める努力を継続されたい。 ・調理中の様子等をライブ配信する取り組みを増やされたい。 ・農業課との協力による地域有機農産物の枠組みを検討されたい。 ・「食育」の一環として「命をいただくこと」の伝え方を検討されたい。

年度戦略 (小戦略)	3-⑤	子どもの読書活動の推進
評価のポイント	基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等	
戦略計画は基本目標の達成のために、その役割を果たしたか	<p>【成果】 <input type="checkbox"/> 評価する <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当 <input type="checkbox"/> 評価できない 理由等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本プレゼントの取り組みや、蔵書管理システムの導入は評価する。 ・進捗状況確認指標、補足指標からすると概ね妥当 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生の読書を進めるためにも小中学生への読書の推進を図られたい。 ・読み語りには保護者の協力が必須である。保護者へ、読書の重要性などの周知を進められたい。 	

年度戦略 (小戦略)	3-⑥	児童の放課後の居場所づくり
評価のポイント	基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等	
戦略計画は基本目標の達成のために、その役割を果たしたか	<p>【成果】 <input type="checkbox"/> 評価する <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当 <input type="checkbox"/> 評価できない 理由等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土曜預かりなど保護者の理解を得ながら進めている。 ・放課後の居場所確保はできているようだが、長期休日の居場所確保に不安が残る。 ・小学校高学年の受け入れが少ない点について、民間施設による受け入れ等を検討し、取り組み始めていることは評価する。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土曜日預かり、高学年の受け入れ、夏休みなど長期休日の受け入れについて、現場のニーズを把握しながら、スピード感を持って取り組まれない。 ・長期休日の居場所づくりを官民連携して確保に努められたい。 ・放課後子ども教室の担い手確保など各地で苦勞している。課題であるので、地域と協力して積極的な支援を進められたい。 	

年度戦略 (小戦略)	3-⑦	少子化における児童生徒の教育環境の充実に向けた取組
評価のポイント	基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等	
戦略計画は基本目標の達成のために、その役割を果たしたか	<p>【成果】 <input type="checkbox"/> 評価する <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当 <input type="checkbox"/> 評価できない 理由等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・審議会を設置し、「特色・魅力ある学校づくりに重点をおいて協議を進める」とした方向性は、評価する。 ・始まったばかりでありこれから期待する。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学校区により、諸条件が異なると考えられる。地域や環境を考慮し中身の濃い検討を進められたい。 ・学校運営協議会での綿密な情報共有を図られたい。 	

年度戦略 (小戦略)	3-⑧	防犯・通学路の安全対策・環境整備・気候変動適応
評価のポイント	基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等	
戦略計画は基本目標の達成のために、その役割を果たしたか	<p>【成果】 <input type="checkbox"/> 評価する <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当 <input type="checkbox"/> 評価できない 理由等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通学路安全対策の着実な対応状況や、学校、家庭、地域等関係者と連携した児童生徒の安全確保の取り組みを評価する。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通学路として安全な道路選択が未成熟。街灯の確保が必要な個所がある。 ・不審者情報など、学校からの配信で自治会役員へ伝わるが、その後のかかわりについて担当課と地域で検討し、進められたい。 ・年度戦略3-⑧、と年度戦略12-③の内容は重複している。いいだ未来デザイン2028の趣旨から見直されたい。 	

評価のポイント	方向性の妥当性、社会変化への適応状況の評価	
実績を踏まえ2023年度の方向性・妥当性・社会的環境変化への適応状況	<p>【評価】 <input type="checkbox"/> 概ね妥当 <input type="checkbox"/> 評価する <input type="checkbox"/> 評価できない 理由等)</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8項目の方向性は評価する、コロナ過での今後の取り組みはコロナを理由に消極的にならないようにしてもらいたい。 	

事業No.	245	事務事業名	人間関係づくり支援事業
基本目標	3	“結いの心”に根ざす教育を実践し、豊かな心とリニア時代を生きる力を育む	
小戦略	① ②	学力保障・学力の向上 温かな人間関係づくりと誰ひとり取り残さない教育や支援	

「評価視点・評価のポイント」からの 評価できる点、今後に向けた課題・方向性

【評価】

- ・年度戦略（小戦略）を実現するために、概ね妥当と評価する。
- ・児童・生徒の不登校対策として、「びーいんぐ」の「ムトスぷらざ」への開設は評価する

【見直し・改善点等】

- ・不登校児対策で全児童に対して、Q U診断を行ったことは評価するが、継続的な実施、親への周知、詳細な分析を行ったうえで更なる対策を検討されたい。
- ・不登校特例校の分教室設置を検討されたい。
- ・民間フリースクールとのネットワークを強化されたい。
- ・互いの良さを認め合える人間関係づくりに関する政策をさらに重要視されたい。
- ・教職員の研鑽や、スキルアップに努められたい。

次年度以降に対する判断

改善
(予算反映無)

- ・挙げた課題について、改善を図られたい。

事業No.	256	事務事業名	特別支援教育支援事業
基本目標	3	“結いの心”に根ざす教育を実践し、豊かな心とリニア時代を生きる力を育む	
小戦略	②	温かな人間関係づくりと誰ひとり取り残さない教育や支援	

「評価視点・評価のポイント」からの 評価できる点、今後に向けた課題・方向性

【評価】

- ・年度戦略（小戦略）を実現するために、概ね妥当と評価する。
- ・インクルーシブ教育推進のための副学籍による交流活動支援や、研修会の開催は評価する。
- ・「インクルーシブ教育システムの構築」に向けて取り組んでいる教育委員会の方向性に賛成するとともに、更なるバージョンアップを期待したい。
- ・特別支援教育支援員の配置は評価する。

【見直し・改善点等】

- ・特別支援教育支援員の体制の充実を図られたい。

次年度以降に対する判断

継 続

事業No.	262	事務事業名	小中連携・一貫教育推進事業
基本目標	3	“結いの心”に根ざす教育を実践し、豊かな心とリニア時代を生きる力を育む	
小戦略	① ⑦	学力保障・学力の向上 少子化における児童生徒の教育環境の充実に向けた取組	

「評価視点・評価のポイント」からの 評価できる点、今後に向けた課題・方向性

【評価】

- ・年度戦略（小戦略）を実現するために、概ね妥当と評価する。
- ・12年間の取り組みと現在の課題、教育委員会の捉え方、考え方は理解した。方向性は評価する。

【見直し・改善点等】

- ・「これからの学校の在り方運営審議会」の運営に関して個別事務事業による進行管理を検討されたい。
- ・飯田型キャリア教育、飯田型コミュニティスクールとの連携した取り組みを強化されたい。

次年度以降に対する判断

改善
(予算反映無)

- ・挙げた課題について、改善を図られたい。

基本目標	4	豊かな「学びの土壌」を活かした「学習と交流」を進め、飯田の自治を担い、可能性を広げられる人材を育む
-------------	----------	--

1 基本目標の2022年度の成果評価

(1) 基本目標

評価のポイント	未来デザインを上から下へ俯瞰する視点で方向性・妥当性の評価
①基本目標のねらいと取り巻く状況の認識は妥当か	<p>【評価】 <input type="checkbox"/>評価する <input checked="" type="checkbox"/>概ね妥当 <input type="checkbox"/>評価できない 理由等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症と丘の上結いスクエアに触れられている点で概ね妥当としたい。 ・住民主体な学習の支援や、地育力を活用し発達段階に応じた学習交流活動など、当地域の学びの土壌を活かした取り組みを推進している。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丘の上結いスクエアのさらなる効果的な利活用を図りたい。
評価のポイント	戦略計画との関係性、目標達成への貢献度・成果の評価
②取り組みの内容をどう評価するか	<p>【評価】 <input type="checkbox"/>評価する <input checked="" type="checkbox"/>概ね妥当 <input type="checkbox"/>評価できない 理由等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小戦略の取り組み内容は基本目標に合致している。 ・アフターコロナで今後の取り組みに期待する。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多方面にわたりムトスぷらざを活用した取り組みが数多く行われている。今後も新たな活用方法を探求し、利用率のさらなる向上に努められたい。 ・”結いの原点“と位置付けた場所たり得ているか。
評価のポイント	基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等
③進捗状況確認指標、重要業績評価指標 (K P I)、参考資料等は、戦略の達成度、進捗状況を測る指標として妥当か	<p>【評価】 <input type="checkbox"/>評価する <input checked="" type="checkbox"/>概ね妥当 <input type="checkbox"/>評価できない 理由等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍での開催あったが取り組みはできた。 ・一つ一つの目標値を見ると達成していないと思われるが、ほかは概ね達成している。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なし
評価のポイント	方向性の妥当性、社会変化への適応状況の評価
④実績を踏まえ2023年度の方向性・妥当性・社会的環境変化への適応状況	<p>【評価】 <input type="checkbox"/>評価する <input checked="" type="checkbox"/>概ね妥当 <input type="checkbox"/>評価できない 理由等)</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染症を考慮する取組みとなるが、コロナ禍前と市民の意識が違うことを考慮して進められたい。

(2) 戦略計画

年度戦略 (小戦略)	4-①	住民の主体的な学びあいの支援
評価のポイント	基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等	
戦略計画は基本目標の達成のために、その役割を果たしたか	<p>【成果】 <input type="checkbox"/>評価する <input checked="" type="checkbox"/>概ね妥当 <input type="checkbox"/>評価できない 理由等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ムトスぷらざを拠点に、市民活動を支援する相談窓口の開設や、自然、歴史、文化など地域資源を活用した学級や講座の開催などの取組は評価する。 ・一方で、ムトスぷらざを訪問したことの無い人がまだまだ多いのは課題。 	

	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民全体が利用したくなるムトスぷらざとなるよう、さらなる活用方法の検討をされたい。 ・市民が受け取りやすい情報発信を工夫されたい。
--	--

年度戦略 (小戦略)	4-②	子どもの主体性、創造性、社会性、協調性、課題解決力などを育む学習の展開
評価のポイント		基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等
戦略計画は基本目標の達成のために、その役割を果たしたか		<p>【成果】 <input type="checkbox"/>評価する <input checked="" type="checkbox"/>概ね妥当 <input type="checkbox"/>評価できない 理由等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳児期から高校生までの取り組みをキャリア教育の視点で整理し、地域、事業者、学校の関係者と協議し系統的に取り組んでいる。 ・進捗状況確認指標、補足指標から概ね妥当。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども達が与えられた環境ではなく主体性をもって考え実現するよう支援されたい。 ・幼児期から高校生までに地域や社会との関わりを重視することで、ふるさとに愛着をもち主体的に人生を切りひらいていく力を育むための取り組みを進められたい。 ・飯田コミュニティスクールと飯田型キャリア教育の関係性を明確にされたい。

年度戦略 (小戦略)	4-③	飯田の価値と魅力の学びと発信
評価のポイント		基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等
戦略計画は基本目標の達成のために、その役割を果たしたか		<p>【成果】 <input type="checkbox"/>評価する <input checked="" type="checkbox"/>概ね妥当 <input type="checkbox"/>評価できない 理由等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飯田学輪大学の取組はコロナ禍であっても取り組めた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当課では、発信強化をどのように進めるか。

年度戦略 (小戦略)	4-④	伝統文化、文化財の保存・継承・活用の推進
評価のポイント		基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等
戦略計画は基本目標の達成のために、その役割を果たしたか		<p>【成果】 <input type="checkbox"/>評価する <input checked="" type="checkbox"/>概ね妥当 <input type="checkbox"/>評価できない 理由等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの活動への支援が進んでいる。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保存継承そして活用を観光につなげるため、観光課と連携した取り組みも記載されたい。 ・後継者育成へ更なる支援を進められたい。 ・「田中芳男」に代表される、郷土の偉人を研究し、広報されたい。

年度戦略 (小戦略)	4-⑤	社会教育施設の整備、サービス向上
評価のポイント	基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等	
戦略計画は基本目標の達成のために、その役割を果たしたか	<p>【成果】 <input type="checkbox"/> 評価する <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当 <input type="checkbox"/> 評価できない 理由等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公民館などのオンライン申し込み等が可能になりサービス向上につながった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 貴重な資料等が散逸しないための、収蔵場所の確保を早急に進められたい。 	

年度戦略 (小戦略)	4-⑥	大学の機能を活かした学びの推進
評価のポイント	基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等	
戦略計画は基本目標の達成のために、その役割を果たしたか	<p>【成果】 <input type="checkbox"/> 評価する <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当 <input type="checkbox"/> 評価できない 理由等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 飯田を舞台として実施している大学の調査研究活動の一部をオープン化し、大学と市民の連携を生む取り組みが進んでいる。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 飯田学輪大学参加者及び参加可能講座が増える取り組みとされたい。 	

評価のポイント	方向性の妥当性、社会変化への適応状況の評価	
実績を踏まえ 2023 年度の方向性・妥当性・社会的環境変化への適応状況	<p>【評価】 <input type="checkbox"/> 概ね妥当 <input type="checkbox"/> 評価する <input type="checkbox"/> 評価できない</p> <p>【課題】</p>	

基本目標 6 結婚・出産・子育ての希望をかなえる

1 基本目標の2022年度の成果評価

(1) 基本目標

評価のポイント	未来デザインを上から下へ俯瞰する視点で方向性・妥当性の評価
①基本目標のねらいと取り巻く状況の認識は妥当か	<p>【評価】 <input type="checkbox"/> 評価する <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当 <input type="checkbox"/> 評価できない 理由等)</p> <p>・国の動向も踏まえ、コロナ禍の影響と飯田市の人口動態から今後の取り組む方向性を見いだしている。</p> <p>【課題】</p> <p>・記載事項なし</p>
評価のポイント	戦略計画との関係性、目標達成への貢献度・成果の評価
②取り組みの内容をどう評価するか	<p>【評価】 <input type="checkbox"/> 評価する <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当 <input type="checkbox"/> 評価できない 理由等)</p> <p>【課題】</p> <p>・飯田市で子どもを産み育てたいと思える取り組みの充実を図られたい。</p>
評価のポイント	基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等
③進捗状況確認指標、重要業績評価指標（KPI）、参考資料等は、戦略の達成度、進捗状況を測る指標として妥当か	<p>【評価】 <input type="checkbox"/> 評価する <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当 <input type="checkbox"/> 評価できない 理由等)</p> <p>【課題】</p> <p>・記載事項なし</p>
評価のポイント	方向性の妥当性、社会変化への適応状況の評価
④実績を踏まえ2023年度の方向性・妥当性・社会的環境変化への適応状況	<p>【評価】 <input type="checkbox"/> 評価する <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当 <input type="checkbox"/> 評価できない 理由等)</p> <p>【課題】</p> <p>・記載事項なし</p>

(2) 戦略計画

年度戦略 (小戦略)	6-①	結婚の希望をかなえる
評価のポイント	基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等	
戦略計画は基本目標の達成のために、その役割を果たしたか	<p>【成果】 <input type="checkbox"/> 評価する <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当 <input type="checkbox"/> 評価できない 理由等)</p> <p>・具体的な取組とすれば(1)～(4)であり、活動指標はあくまで希望する人が対象なので実績による評価はなじまない。</p> <p>【課題】</p> <p>・合意事項なし</p>	

年度戦略 (小戦略)	6-②	出産の希望をかなえる
評価のポイント	基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等	
戦略計画は基本目標の達成のために、その役割を果たしたか	<p>【成果】 <input type="checkbox"/> 評価する <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当 <input type="checkbox"/> 評価できない 理由等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母子保健コーディネーターの配置や、産後の家事・育児支援事業の開始などの取り組みは評価できる。 ・不妊・不育症治療費の助成を事実婚関係者にも広げたことは評価できる。 ・飯田市も他市と比べても一通りの事業は実施していると認識している。しかし、合計特殊出生率は下がってきている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合意事項なし 	

年度戦略 (小戦略)	6-③	孤立を防ぎ、子育ての希望をかなえる
評価のポイント	基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等	
戦略計画は基本目標の達成のために、その役割を果たしたか	<p>【成果】 <input type="checkbox"/> 評価する <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当 <input type="checkbox"/> 評価できない 理由等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども子育て相談体制の強化や、乳幼児学級、妊婦向け講座の実施など、出産や産後の不安解消につなげる取り組みが整いつつある。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひとりひとりの子どもの発達支援について、今までゆいきっずが担ってきた取り組みを今後も維持できるか。 	

年度戦略 (小戦略)	6-④	飯田の持ち味を活かし、豊かな育ちを支える
評価のポイント	基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等	
戦略計画は基本目標の達成のために、その役割を果たしたか	<p>【成果】 <input checked="" type="checkbox"/> 評価する <input type="checkbox"/> 概ね妥当 <input type="checkbox"/> 評価できない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・従来から実施している「いいだ型自然保育」の継続や、資格を持たない方へ対して保育補助員、子育て支援員の研修会の開催していることを評価する。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子化の中での保育ニーズへの対応と人材確保を図りたい。 	

評価のポイント	方向性の妥当性、社会変化への適応状況の評価	
実績を踏まえ 2023 年度の方向性・妥当性・社会的環境変化への適応状況	<p>【評価】 <input type="checkbox"/> 評価する <input type="checkbox"/> 概ね妥当 <input type="checkbox"/> 評価できない</p> <p>【課題】</p>	

事業No.	101	事務事業名	児童発達支援センター事業
基本目標	6	結婚・出産・子育ての希望をかなえる	
小戦略	③	孤立を防ぎ、子育ての希望をかなえる	

「評価視点・評価のポイント」からの 評価できる点、今後に向けた課題・方向性

<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度戦略（小戦略）を実現するために、概ね妥当と評価する。 ・重症心身障がい児が一般保育園に通園できるようになった。 ・多様化する外来相談への適切な対応は評価する。 ・コロナ禍ではあったがR4年度の活動指標の内容は評価できる。 <p>【見直し・改善点等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材確保の困難さ、施設改修の必要性は認識するが、特別なニーズを持つ子どもが今後益々増えていくことが予想され、定員増員等必要な事項の検討を始められたい。

次年度以降に対する判断

<p>改善 (予算反映無)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・挙げた課題について、改善を図られたい。
-----------------------	--

基本目標	7	「市民総健康」と「生涯現役」をめざす
-------------	----------	---------------------------

事業No.	129	事務事業名	市民の健康づくり事業
基本目標	7	「市民総健康」と「生涯現役」をめざす	
小戦略	②	働き盛り世代からの健康づくり	

「評価視点・評価のポイント」からの 評価できる点、今後に向けた課題・方向性
--

<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度戦略（小戦略）を実現するために、概ね妥当と評価する。 ・3か年計画で全消防団員の検診を実施したことは評価する。 ・コロナ禍ではあったが活動指標からは取組み実績が多く評価する。 <p>【見直し・改善点等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業出前健康講座については企業と連携し、開催数の増加を目指されたい。 ・8020に向け、40歳歯科検診の受診率の向上をはじめ、歯の健康に向けた政策を充実されたい。 ・市民総健康と生涯現役を目指して、「健康」というキーワードで串刺しにした、例えば「地域健康ケア計画」の考え方を、次期健康増進計画に反映されたい。 ・コロナ禍での経験を活かす施策の推進を図られたい。

次年度以降に対する判断

改善 (予算反映無)	・挙げた課題について、改善を図られたい。
---------------	----------------------

事業No.	132	事務事業名	高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施事業
基本目標	7	「市民総健康」と「生涯現役」をめざす	
小戦略	③	高齢期の健康づくり（保健事業と介護予防の一体的実施）	

「評価視点・評価のポイント」からの 評価できる点、今後に向けた課題・方向性
--

<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度戦略（小戦略）を実現するために、概ね妥当と評価する。 ・KDBシステムのデータ分析により、現状把握に努めた点は評価する。 ・コロナ禍ではあったが活動指標の内容は、3年度と比べ評価する。 <p>【見直し・改善点等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人生100年時代と言われる中で、健康寿命延伸政策として、後期高齢者の健診受診を増やすために、医師会との連携、主治医からの勧奨や、通いの場における周知等、後期高齢者の健診受診率の向上につながる取り組みを進められたい。
--

次年度以降に対する判断

継 続	
-----	--

事業No.	317	事務事業名	介護予防・生活支援サービス事業
基本目標	7	「市民総健康」と「生涯現役」をめざす	
小戦略	④	介護予防（重度化防止）の推進	

「評価視点・評価のポイント」からの 評価できる点、今後に向けた課題・方向性

【評価】

- ・年度戦略（小戦略）を実現するために、概ね妥当と評価する。

次年度以降に対する判断

- ・社会文教委員会の所管事務調査で調査継続中

事業No.	318	事務事業名	一般介護予防事業
基本目標		【政策的事務事業】	
小戦略			

「評価視点・評価のポイント」からの 評価できる点、今後に向けた課題・方向性

【評価】

- ・概ね妥当と評価する。
- ・遠山地区運動教室の始動を評価する。
- ・コロナ禍ではあったがR4年度の活動指標は評価できる。

【見直し・改善点等】

- ・フレイル予防（介護予防）の認知度向上を各地区で取り組まれない。
- ・「通いの場」へ参加したくても交通手段がなくて行けない人への対応を検討されたい。
- ・フレイル予防に対して意欲のない人にどう意欲を持ってもらうか検討されたい

次年度以降に対する判断

改善
(予算反映無)

- ・挙げた課題について、改善を図られたい。

事業No.	319	事務事業名	高齢者健康づくり事業
基本目標	7	「市民総健康」と「生涯現役」をめざす	
小戦略	③	高齢期の健康づくり（保健事業と介護予防の一体的実施）	

「評価視点・評価のポイント」からの 評価できる点、今後に向けた課題・方向性

【評価】

- ・年度戦略（小戦略）を実現するために、概ね妥当と評価する。
- ・感染対策を実施した上でのいきいき教室開催は評価する。
- ・コロナ禍ではあったがR4年度の活動指標は評価できる。

【見直し・改善点等】

- ・年齢層による意識の変化、対象者によるニーズの違い、地域の実情に合った、新たな介護予防事業を関係課で連携し展開されたい。

次年度以降に対する判断

改善
(予算反映無)

- ・挙げた課題について、改善を図られたい。

基本目標 8 共に支え合い、自ら行動する地域福祉を充実させる

事業No.	65	事務事業名	地域福祉推進事業
基本目標	8	共に支え合い、自ら行動する地域福祉を充実させる	
小戦略	① ②	地域福祉課題検討会の開催による地域福祉活動の推進 「住み慣れた地域に住み続けられる社会の構築	

「評価視点・評価のポイント」からの 評価できる点、今後に向けた課題・方向性

【評価】

- ・年度戦略（小戦略）を実現するために、概ね妥当と評価する。
- ・計画を上回る地域福祉コーディネーターの活動実績は評価する。
- ・コロナ禍ではあったが、R3年より実績が増えた取組みがある点は評価できる。

【見直し・改善点等】

- ・コーディネーターを増員したことは評価する。その上に立って仕事量や、内容の適正化や質の向上について検証されたい。
- ・地域福祉コーディネーターの役割が益々重要になることは認識している。地域住民、高齢者一人ひとりの意識が高まるために、地道な取組みを模索されたい。

次年度以降に対する判断

継 続

事業No.	73	事務事業名	障害福祉推進事業
基本目標	8	共に支え合い、自ら行動する地域福祉を充実させる	
小戦略	③ ④	複合化・複雑化した課題解決に向けた重層的支援体制の構築 障がい者の社会参加の推進	

「評価視点・評価のポイント」からの 評価できる点、今後に向けた課題・方向性

【評価】

- ・年度戦略（小戦略）を実現するために、概ね妥当と評価する。
- ・相談支援事業の利用件数が多いことは、それだけ「困った時は、相談してみよう」と期待されている。
- ・バリアフリートイレに関する取組みは評価するが、スピードアップを求める。

【見直し・改善点等】

- ・各種団体等との連携を通じて、多方面、多くの市民が、障がい者と健常者をお互いに理解する機会と場づくりを進められたい。
- ・バリアフリートイレマップに関するオープンデータ化を速やかに進められたい。
- ・発達障がい児・者、医療的ケア児・者などの当事者から様々な声が寄せられている。一人ひとりの声に耳を傾け、出来ることは何かを前向きに検討し、必要な施策を新たに構築されたい。
- ・重度心身障害児・医療的ケアの必要な児童のショートステイができる施設の検討を進められたい。

次年度以降に対する判断

改 善
(予算反映無)

- ・挙げた課題について、改善を図られたい。

事業No.	90	事務事業名	重層的支援体制整備事業
基本目標	8	共に支え合い、自ら行動する地域福祉を充実させる	
小戦略	③	複合化・複雑化した課題解決に向けた重層的支援体制の構築	
「評価視点・評価のポイント」からの 評価できる点、今後に向けた課題・方向性			
<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度戦略（小戦略）を実現するために、概ね妥当と評価する。 ・県内他市に比べて、「福祉なんでも相談窓口」をいち早く設置し、重層的支援事業に取り組み始めたことは高く評価する。 <p>【見直し・改善点等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芦屋市の取り組みに倣い、部、課、係の垣根をこえた連携を図るため、庁内職員向け等の地道な研修・情報共有・意見交換・啓発活動に取り組みたい。 ・引きこもり当事者を参加支援事業に結びつける対応を行い、引きこもり解消につなげていく取り組みを進められたい。 			
次年度以降に対する判断			
改善 (予算反映無)		・挙げた課題について、改善を図られたい。	

1 基本目標の2022年度の成果評価

(1) 基本目標

評価のポイント	未来デザインを上から下へ俯瞰する視点で方向性・妥当性の評価
①基本目標のねらいと取り巻く状況の認識は妥当か	<p>【評価】 <input checked="" type="checkbox"/> 評価する <input type="checkbox"/> 概ね妥当 <input type="checkbox"/> 評価できない 理由等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題と活動に対する認識は妥当。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域づくりを地域主体で進める」ことについて、各地区が持続可能であり続けるための支援ができていないかが全体における課題であると改めて認識されたい。
評価のポイント	戦略計画との関係性、目標達成への貢献度・成果の評価
②取り組みの内容をどう評価するか	<p>【評価】 <input type="checkbox"/> 評価する <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当 <input type="checkbox"/> 評価できない 理由等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明内容から判断すると概ね妥当。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり委員会からの評価はどうかという視点をいれていくべきではないか。 ・地区ごとそれぞれの取り組み状況を把握しないと「20 地区が輝く～」の進捗状況が図りづらい
評価のポイント	基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等
③進捗状況確認指標、重要業績評価指標（KPI）、参考資料等は、戦略の達成度、進捗状況を測る指標として妥当か	<p>【評価】 <input type="checkbox"/> 概ね妥当 <input type="checkbox"/> 評価する <input checked="" type="checkbox"/> 評価できない 理由等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価できないとしたが指標を否定するものではなく、指標についての課題認識として基本目標を評価するための指標としては不足している。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本目標の進捗を測れるような、地域が主体となった客観的な指標を追加してはどうか。 ・例えば、飯田市に暮らすことによる飯田市民の満足度の指標が必要であり、客観的なデータとして「市民意識調査」を含め、若い世代へのアプローチをさらに強化し、市民の社会参加をウェルビーイングの視点から捉えた分析を用いた住民満足度の指標を活用されたい。
評価のポイント	方向性の妥当性、社会変化への適応状況の評価
④実績を踏まえ2023年度の方向性・妥当性・社会的環境変化への適応状況	<p>【評価】 <input type="checkbox"/> 評価する <input type="checkbox"/> 概ね妥当 <input checked="" type="checkbox"/> 評価できない 理由等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の展開に対する現状認識に危機感が感じられない。コロナ禍の追い打ちを受け、一層地域自治の崩壊が加速していくかもしれないこの時に、より緊張感をもって各地区に寄り添った取り組みが必要。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域づくりを地域主体で進める」このことについてもムトスの精神が必要である。 ・地域と行政のお互いの考え方や認識におけるギャップの解消が必要である。 ・地域がまちづくりを行っていくために必要なことをもう一度確認した上で、行政がまちづくり委員会をコーディネートする必要がある。

(2) 戦略計画

年度戦略 (小戦略)	9-①	住民みんなで進める自治を育む
評価のポイント	基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等	
戦略計画は基本目標の達成のために、その役割を果たしたか	<p>【成果】 <input type="checkbox"/> 評価する <input type="checkbox"/> 概ね妥当 <input checked="" type="checkbox"/> 評価できない 理由等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本目標の中期の残りとは後期にどう目標を達成していくか、重要な局面であるにも関わらず取組の内容の結果が記載されていないので、小戦略が進んでいるのかどうなのかが分からない。まちづくり委員会連絡会議での情報提供や意見交換は良いのだが、課題を整理し改善に向けていく場が必要ではないか。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「緩やかなつながり」の部分をも具体的にどう考え、地域に展開していくか、入口の考え方としては良いが、地域自治を担いゆく市民をどう育てていくかが今後の課題と考える。 隣近所との「緩やかなつながり」は中身の説明があったが、市民への周知や自治会加入への反映状況が伝わってこない。 なぜ「一部地区では創意工夫の取組が継続されている」が取組の成果となるのか疑問である。一部地区という認識があるのであれば、全地区で創意工夫の取組ができるよう、今後の方向性で触れるべきと考えるが、触れられていないのは疑問である。 加速度的に進む少子高齢化による地域の人材不足や、コロナ禍で経験してきた地域行事の在り方と今後についても、コーディネートする必要がある。 全市的な面からの提案として、市からの配布物が役員の負担となっているとの声も聞く。デジタル化で対応できる物や対応できる市民にはそうされることが負担軽減にもなるし、若年層にはその方が市からの情報が伝わるようになる。またデジタル回覧板の導入を検討されたい。 	

年度戦略 (小戦略)	9-②	地域の担い手を確保し、活力を維持するための「20 地区田舎へ還ろう戦略」の推進
評価のポイント	基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等	
戦略計画は基本目標の達成のために、その役割を果たしたか	<p>【成果】 <input type="checkbox"/> 評価する <input type="checkbox"/> 概ね妥当 <input checked="" type="checkbox"/> 評価できない 理由等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「20 地区へ還ろう戦略」がどの程度進んだのか、全体像としてどうだったのかが不明のため。また自己評価としてどうなのかが分からない。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 行政と地域役員の考え方や知識にギャップが生じていないか、地域で気付いている事、気付いていない事を見極め、各地区の魅力に磨きをかけるための支援ができていくか。 行政が支援するにあたり 20 地区に深くかかわる人材(例としてセンター職員)をどう育成していくべきか取組みの中で明確にする必要がある。(ジェネラリストとスペシャリストの考え方) 関係人口・交流人口について、コロナ禍で中断していた今までの取り組みや活動を再構築し、コロナ前の熱量に上げていく必要がある。 「20 地区田舎へ還ろう戦略」は各地区の取り組み状況を見る必要がある。また「20 地区田舎へ還ろう」の用語を地区で耳にする機会が少なくなっており、意義の再確認が必要である。 地域おこし協力隊について現在は中山間 7 地区の地区ごとの課題解決に当たっているが、全市的な視点での課題解決、情報発信を取り組みのテーマにする必要がある。 	

年度戦略 (小戦略)	9-③	中山間地域をもっと元気にする
評価のポイント	基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等	
戦略計画は基本目標の達成のために、その役割を果たしたか	<p>【成果】 <input type="checkbox"/> 評価する <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当 <input type="checkbox"/> 評価できない 理由等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中山間地域の各取り組みは評価し、評価シートの内容からは概ね妥当。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中山間地域のトレンドと全体像がわかるような客観的な評価指標となっているか、自治振興センターの評価ではなく、住民の評価となっているか。 ・ 中山間地域は人口減少、少子高齢化の課題先進地であり、持続可能な地域としていくため更なる連携強化が求められる。これからの地域づくり担う壮年層の組織化支援が必要である。 ・ 中山間地域の活力が飯田市全体にとって必要ならば、地域と行政の協働というがそのみならず、地域住民の機運醸成など全市的な取り組みを行政は模索すべき。 ・ 今後の方向性でうたっている「地域課題の解決に向けた組織の設立～」は中山間地に限らず、全市的な課題と捉えて小戦略9-①に集中しても良いのではないか。 	

評価のポイント	基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等	
実績を踏まえ 2023 年度の方向性・妥当性・社会的環境変化への適応状況	<p>【評価】 <input type="checkbox"/> 概ね妥当 <input type="checkbox"/> 評価する <input type="checkbox"/> 評価できない 理由等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 	

事業No.	9	事務事業名	地域自治組織運営事業
基本目標	9	20 地区が輝く活き活きとした地域づくりを地域主体に進める	
小戦略	①	住民みんなが進める自治を育む	

「評価視点・評価のポイント」からの 評価できる点、今後に向けた課題・方向性

【評価】

- ・年度戦略（小戦略）を実現するために、概ね妥当と判断する。
- ・所長会検討会を、人口規模に応じて4ブロックに分けたことにより、共通課題を共有できたことは評価する。

【見直し・改善点等】

- ・まちづくり委員会役員の負担(感)軽減については、次世代につながる自治力を維持しようとする取り組みが始まったところである。引き続き具体的な模索を進められたい。

次年度以降に対する判断

改善 (予算反映無)	【判断の理由】 <ul style="list-style-type: none"> ・抱えている共通課題は全地区での共通課題と、地域独自の細かな課題に分別されてくるが、地域独自の課題解決にあたっては、担当地区職員との連携が重要である。 ・コーディネート役の主管部門と、主体であるまちづくり委員会との橋渡し役であるセンター長の役割とは何かを、再認識することが必要である。
----------------------	--

事業No.	10	事務事業名	地域自治組織助成事業
基本目標	9	20 地区が輝く活き活きとした地域づくりを地域主体に進める	
小戦略	①	住民みんなが進める自治を育む	

「評価視点・評価のポイント」からの 評価できる点、今後に向けた課題・方向性

【評価】

- ・年度戦略（小戦略）を実現するために、まちづくり委員会の活動活性化のためのパワーアップ地域交付金等は、助成事業として妥当である。
- ・パワーアップ地域交付金の見える化を進めているが、各地区の課題解決のための助成事業として理解され、執行されているかについては疑問が残る。

【見直し・改善点等】

- ・地域の高齢者などがやむを得ない理由で脱会を迫られることがないように「緩やかなつながり」を大事にされたい。
- ・未加入者へのアプローチとして「緩やかなつながり」から次のステップへ進むための研究や議論を進められたい。

次年度以降に対する判断

改善 (予算反映無)	【判断の理由】 <ul style="list-style-type: none"> ・パワーアップ地域交付金について、その使途を役員のみならず地区住民一人ひとりが理解し、共感できるよう取り組まれたい。 ・脱会に至らないための工夫など各地域で取り組んでいる好事例の横展開の強化にさらに取り組まれたい。 ・未加入者に対しては「緩やかなつながり」から次のステップへ進むための研究や議論を進められたい。
----------------------	--

事業No.	13	事務事業名	20 地区田舎へ還ろう戦略支援事業
基本目標	9	20 地区が輝く活き活きとした地域づくりを地域主体に進める	
小戦略	②	地域の担い手を確保し、活力を維持するための「20 地区田舎へ帰ろう戦略」の推進	

「評価視点・評価のポイント」からの 評価できる点、今後に向けた課題・方向性

【評価】

- ・年度戦略（小戦略）を実現するために、各地区の基本構想実現に向けた取り組みを支援している点は評価するが、地区の事業が「20 地区田舎へ還ろう戦略」と関連付いているか今一度点検する必要がある。

【見直し・改善点等】

- ・各地区の基本構想をベースにして、その進捗具合を各地区まちづくり委員会で自己評価し、それを「見える化」されたい。
- ・移住定住に繋げるためにまちづくり委員会が主体となって何ができるのか、各地区の基本構想には取り上げられているが実践されているのか、指導や支援の充実を図られたい。

次年度以降に対する判断

改善
(予算反映無)

【判断の理由】

- ・全市的な視点、20 地区それぞれの視点で取り組むこと重要性は論を待たないが、これらの中間として飯田市の特徴としての「山・里・まち」の暮らしの視点で田舎へ還ろう発信をすると、移住・定住志望者の感触を得やすくなるのではないかな。
- ・各地区の個性は大切にしつつも、地区ごとで取り組むことには限界があるため、飯田市として主導していく必要がある。

事業No.	17	事務事業名	中山間地域振興事業
基本目標	9	20 地区が輝く活き活きとした地域づくりを地域主体に進める	
小戦略	③	中山間地域をもっと元気にする	

「評価視点・評価のポイント」からの 評価できる点、今後に向けた課題・方向性

【評価】

- ・年度戦略（小戦略）を実現するために、それぞれ7 地区の各取り組みへの協働、支援は妥当である。

【見直し・改善点等】

- ・今後は中山間地以外の市民の関心が深められるよう検討願いたい。
- ・「元気」をどう評価するか難しいため、執行機関側の考え方を明確にされたい。

次年度以降に対する判断

改善
(予算反映無)

【判断の理由】

- ・中山間地域の活力が飯田市全体にとって必要な取り組みであり、中山間地域と行政の協働のみならず、全市的な取り組みとされたい。
- ・地域おこし協力隊については、中山間地域を起点としながら飯田市全体の地域振興に取り組む仕組の構築を検討されたい。

基本目標 10 個性を尊重し、多様な価値観を認め合い、活動の場を広げる

1 基本目標の2022年度の成果評価

(1) 基本目標

評価のポイント	未来デザインを上から下へ俯瞰する視点で方向性・妥当性の評価
①基本目標のねらいと取り巻く状況の認識は妥当か	<p>【評価】 <input checked="" type="checkbox"/> 評価する <input type="checkbox"/> 概ね妥当 <input type="checkbox"/> 評価できない 理由等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦略は時代の要請に沿うものであり妥当。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これからの取り組みとしては、ムトスの精神を高めていく段階であると認識する。 ・女性の声が反映されるまちづくりの必要性は論を待たないが、その手段として「女性委員の比率を高める」ことが実際に求められているのか。KPIの数値が伸び悩んでおり、分析が必要ではないか。
評価のポイント	戦略計画との関係性、目標達成への貢献度・成果の評価
②取り組みの内容をどう評価するか	<p>【評価】 <input type="checkbox"/> 評価する <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当 <input type="checkbox"/> 評価できない 理由等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ムトスぷらざを拠点に様々な活動が展開され、具体的な事業を丁寧に進めている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジェンダーギャップについては、多様な構成員を持つ組織の方が高パフォーマンスであると明らかにされている。女性が活躍できる環境づくりが必須となっていることを取り巻く状況の認識に加えられたい。 ・ジェンダーギャップについて、地域課題としてもっと認知を進めるべき。 ・いかに「ムトスの精神」を市民レベルまで落とし込んでいくかが重要である。
評価のポイント	基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等
③進捗状況確認指標、重要業績評価指標（KPI）、参考資料等は、戦略の達成度、進捗状況を測る指標として妥当か	<p>【評価】 <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当 <input type="checkbox"/> 評価する <input type="checkbox"/> 評価できない 理由等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・KPIの⑦は評価するが、ただし、多文化と言うなら、外国人などの受け止め方、あるいは飯田市に対する「住みよさ」の評価を入れるべきでは。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SNSによる情報発信の取り組みの強化が必要であり、SNSの友達やフォロワーの数を進捗状況確認指標、重要業績評価指標（KPI）に追加し指標として捉える必要がある ・地域活動への参加が住民満足に影響を与えている。基本目標9で提案した内容（「健康とくらしの調査」から、市民の社会参加をウェルビーイングの視点から捉えた分析（日本福祉大学 宮國講師）をこの目標指標でも活用されたい。 ・この戦略を大きくとらえ、多文化からの視点を広く受け入れるためのステップにしていくべきではないか。単なる移住者や外国人の数値ではなく、関係人口、来訪者の印象、感想などの指標を考えられたい。

評価のポイント	方向性の妥当性、社会変化への適応状況の評価
④実績を踏まえ2023年度の方向性・妥当性・社会的環境変化への適応状況	<p>【評価】 <input type="checkbox"/>評価する <input checked="" type="checkbox"/>概ね妥当 <input type="checkbox"/>評価できない 理由等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ムトスぷらざを、女性と学生の活動拠点となるよう、さらに取り組むとよい。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ムトスぷらざについての記述はあるが「ムトスの精神」についての記述が見当たらない、取り組みとして文章からは読み取れるが大事な部分ではないのか。(特に小戦略①：令和4年度記載あり、令和5年度記載なし) ・ここではムトスとジェンダーギャップを市の課題としてさらに強く捉えて推進されたい。 ・事業所、地域、行政などの組織においてその効率、成果が向上することを目標とするべき。 ・これからも住み続けられる持続可能な飯田市としていくためには、ジェンダーギャップやジェネレーションギャップの解消と相互理解への努力が不可欠である。

(2) 戦略計画

年度戦略 (小戦略)	10-①	多様性とムトスの行動力でまちづくりを推進
評価のポイント		基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等
戦略計画は基本目標の達成のために、その役割を果たしたか		<p>【成果】 <input type="checkbox"/>評価する <input checked="" type="checkbox"/>概ね妥当 <input type="checkbox"/>評価できない 理由等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ムトスぷらざを核に市民活動の促進が見られるが、今後の活用についても注視していく必要がある。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな活動が展開されている点は評価するが、産業振興、環境意識の醸成教育などの複数分野にまたがるエシカル消費は、基本目標内での取り組みの整理をされたい。

年度戦略 (小戦略)	10-②	多様性が尊重され、安心して暮らせる地域づくり
評価のポイント		基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等
戦略計画は基本目標の達成のために、その役割を果たしたか		<p>【成果】 <input type="checkbox"/>評価する <input checked="" type="checkbox"/>概ね妥当 <input type="checkbox"/>評価できない 理由等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様性について前向きに取り組んでいる姿勢が窺える。ジェンダーについては同年代同士よりも世代間ギャップによる影響が大きいとの指摘もあり、全市民、全世代への多様性に関する考え方の浸透の取り組みを注視する。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消費生活相談に関する記述が多くなっており、「多様性」と「安心して暮らせる地域づくり」をこの小戦略で一緒に扱うことに違和感を覚える。 ・消費生活センターの所管について、市民課に留まらず、危機管理部などの関連部署との連携も検討されたい。 ・高齢者への消費者トラブル回避のための取り組みについては、情報弱者への情報提供に今後も配慮が必要である。 ・ワーク・ライフ・バランス推進の取り組みの中身が見えないため、従業員の人事、給与からも検討すべき。 ・特に年齢の高い市民に、世代間でどのようなギャップが出ているかなどの具体的な事例を出して啓発するなど、アンコンシャスバイアスの認識の浸透が必要

	<p>である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ジェンダーギャップが若年層の流出や地元回帰に影響を及ぼしている場合が少なくない。飯田市を外から見た時のイメージやブランディングにも直結すると考えられ、移住定住に関わることであり、全市的にさらに取り組まれない。
--	--

年度戦略 (小戦略)	10-③	国籍や文化等の多様性を認め合い、外国人住民と共生する地域づくり
評価のポイント		基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等
戦略計画は基本目標の達成のために、その役割を果たしたか	<p>【成果】 <input checked="" type="checkbox"/> 評価する <input type="checkbox"/> 概ね妥当 <input type="checkbox"/> 評価できない 理由等)</p> <ul style="list-style-type: none"> 戦略計画は基本目標の達成のために概ねその役割を果たしており、ムトスぷらざの活用などを含めこれからの期待を込めて評価する。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後は「外国人も日本人も関係なく地域として受け入れていけるまち」にシフトしていくことを考えられたい。 	

評価のポイント	基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等	
実績を踏まえ 2023 年度の方向性・妥当性・社会的環境変化への適応状況	<p>【評価】 <input type="checkbox"/> 概ね妥当 <input type="checkbox"/> 評価する <input type="checkbox"/> 評価できない 理由等)</p> <p>・</p> <p>【課題】</p> <p>・</p>	

事業No.	22	事務事業名	人権・男女共同参画推進事業
基本目標	10	個性を尊重し、多様な価値観を認め合い、活動の場を広げる	
小戦略	① ②	多様性とムトスの行動力でまちづくりを推進 多様性が尊重され、安心して暮らせる地域づくり	

「評価視点・評価のポイント」からの 評価できる点、今後に向けた課題・方向性

【評価】

- ・年度戦略（小戦略）を実現するために、行ってきた各種の啓発活動は評価する。

【見直し・改善点等】

- ・今後、ジェンダーギャップについては啓発、学習の域から脱し、女性が活躍できる環境をいかに作るかが課題である。

次年度以降に対する判断

改善
(予算反映無)

【判断の理由】

- ・この事業は「人権尊重」と「柔軟な働き方改革」に力を入れている。取り組みの内容は良いと思うが、ジェンダーギャップ解消に一層力を入れていく打ち出しも必要ではないか。
- ・ジェンダーの不平等について近年、同質性の高い組織(女性が少ない)よりも多様な構成員を持つ組織の方が高パフォーマンスであると明らかにされている。「個性を尊重し、多様な価値観を認め合い…」良い社会にするというモラルではなく、事業所、地域、行政などで女性活躍の環境づくりが必須となっていることを考えると、どう組織を変革させるかの検討を始めるべきである。
- ・組織が活性化されることで若年女性の帰飯も進むと考えられる。

事業No.	23	事務事業名	多文化共生社会推進事業
基本目標	10	個性を尊重し、多様な価値観を認め合い、活動の場を広げる	
小戦略	③	国籍や文化等の多様性を認め合い、外国人住民と共生する地域づくり	

「評価視点・評価のポイント」からの 評価できる点、今後に向けた課題・方向性

【評価】

- ・年度戦略（小戦略）を実現するために、概ね妥当と判断する。

【見直し・改善点等】

- ・あまり多文化にこだわらず、他から来る人を受け入れていく許容性といった点をとらえていくべきである。

次年度以降に対する判断

改善
(予算反映無)

【判断の理由】

- ・今後の目指すところとすると、多文化共生社会実現のステージから、それを目指さなくてもそれが当たり前となり次のステージへ昇華するような事業目的となると良い。

基本目標 11 地球環境への配慮が当たり前の暮らしとまちづくりの推進

事業No.	141	事務事業名	地域エネルギー普及事業
基本目標	11	地球環境への配慮が当たり前の暮らしとまちづくりの推進	
小戦略	③	地域産再生可能エネルギーの創出と活用	

「評価視点・評価のポイント」からの 評価できる点、今後に向けた課題・方向性

【評価】

- ・年度戦略（小戦略）を実現するために、概ね妥当と判断する。

【見直し・改善点等】

- ・太陽光発電については、自家消費推進のPRを積極的に推進されたい。
- ・太陽熱温水器と太陽光発電設備の設置場所は一般的には屋根に頼らざるを得ないことから、飯田市としてどちらを優先するのかを含め、目標値について再考されたい。
- ・小沢川小水力発電所については、事業推進のための最善策を考えられたい。

次年度以降に対する判断

改善
(予算反映無)

【判断の理由】

- ・市民、事業者、行政が共同して再生可能エネルギーの域産域消に取り組むことで持続可能な地域づくりとなるように、好事例や先進地の情報共有をさらに実施し、より具体的に市民意識の情勢に取り組まれない。

事業No.	143	事務事業名	脱炭素先行地域構築事業
基本目標	11	地球環境への配慮が当たり前の暮らしとまちづくりの推進	
小戦略	③	地域産再生可能エネルギーの創出と活用	

「評価視点・評価のポイント」からの 評価できる点、今後に向けた課題・方向性

【評価】

- ・年度戦略（小戦略）を実現するために、妥当と判断する。

【見直し・改善点等】

- ・川路地区が先進地域のモデルとなり、今後どのように市内に広めることができるのかが課題である。
- ・市内全小中学校も事業目的の対象になっている、脱炭素化へ向けたLEDへの切り替えについては環境学習という面からも教育委員会と連携をされたい。

次年度以降に対する判断

継続

【判断の理由】

- ・本事業を一部の取り組みとすることなく、環境文化都市として全市民的な取り組みにされたい。
- ・市内全小中学校の脱炭素化へ向けたLEDへの切り替えについては教育委員会と連携し環境学習という面からも環境意識の醸成に取り組まれない。

基本目標 13 リニア・三遠南信時代を支える都市基盤を整備する

1 基本目標の2022年度の成果評価

(1) 基本目標

評価のポイント	未来デザインを上から下へ俯瞰する視点で方向性・妥当性の評価
①基本目標のねらいと取り巻く状況の認識は妥当か	<p>【評価】 <input type="checkbox"/> 評価する <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当 <input type="checkbox"/> 評価できない 理由等)</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全市的な観点に立っての土地利用の検討は妥当といえるが、市民の合意形成を図って行くには具体的な絵姿を提案していく必要がある。また農地保全政策との兼ね合いを捉えていくことも重要。 ・現時点の基本目標は、リニアに関する記述が中心で、三遠南信道については殆ど触れられていない構成となっている。地域振興や経済効果を考えた時、三遠南信道の開通は大きなポイントとなることから、今後の方向性として視野に入れていくことが必要。
評価のポイント	戦略計画との関係性、目標達成への貢献度・成果の評価
②取り組みの内容をどう評価するか	<p>【評価】 <input type="checkbox"/> 評価する <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当 <input type="checkbox"/> 評価できない 理由等)</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍ということもあり、市民に対する情報発信が十分でなかったことから、駅周辺整備のみならず、その都度できうる限りの情報発信に努められたい。 ・民間事業者と連携し、民間活力の導入についての検証が必要。リニア駅前広場・高架下空間の活用についても民間事業者との連携をどう描いていくのか、方向性を示し展開していくことが必要。 ・基本目標の13は、リニアや三遠南信の開通効果をどう地域振興に活かしていくかの方向性を明確にし、広域的・全市的な観点に立った土地利用を検討した上で、社会インフラの強化等を進めることがねらいとしている。この前提の部分、リニアや三遠南信の開通効果、広域的・全市的な観点に立った土地利用の検討結果の部分が、取り組みの内容に反映されていない（遅れている）ように感じる。
評価のポイント	基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等
③進捗状況確認指標、重要業績評価指標（KPI）、参考資料等は、戦略の達成度、進捗状況を測る指標として妥当か	<p>【評価】 <input type="checkbox"/> 評価する <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当 <input type="checkbox"/> 評価できない 理由等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リニア中央新幹線を地域振興への活かす為の駅周辺整備の進捗、中央自動車道との交通インフラ、二次交通を見据えたEV自動車の導入など、実務に合ったKPIとなっていることは評価できる。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リニアに関する住民への情報発信の回数と、受け取ったと思われる概略の人数等、広報活動に関するKPIを検討されたい。
評価のポイント	方向性の妥当性、社会変化への適応状況の評価
④実績を踏まえ2023年度の方向性・妥当性・社会的環境変化への適応状況	<p>【評価】 <input type="checkbox"/> 評価する <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当 <input type="checkbox"/> 評価できない 理由等)</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル化の推進について、急速に台頭してきた生成AIの扱いをどうするか研究が必要。

(2) 戦略計画

年度戦略 (小戦略)	13-①	リニア・三遠南信時代を見据えた良好な土地利用の推進
評価のポイント	基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等	
戦略計画は基本目標の達成のために、その役割を果たしたか	<p>【成果】 <input type="checkbox"/> 評価する <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当 <input type="checkbox"/> 評価できない 理由等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飯田市全体の土地利用のあり方を考えた時、リニアビジョンや都市計画図、農業振興地域整備計画図、その他防災ハザードマップなど、各レイヤーを重ね、それぞれの計画の整合性を図りつつ、全体の土地利用計画を推進する視点は大変重要なことであり評価できる。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一方で、交流重心にかかる土地利用・景観育成の検討は広く市民に関わる案件であり、意義や方向性について十分な理解が得られるよう説明・提案をしていくことが必要。 ・「信州まちなかグリーンインフラ推進計画」や「眺望点」などの県と連携した取り組みは評価できるが、点の取り組みに留まっているように感じた。広域的・全市的な視点にたった土地利用・景観形成を進めていくためには、20地区を視野に入れた広域的な取り組みが必要。 ・「景観のあり方」について、リニア駅周辺整備の一環としてのみ検討が行われているようだが、ランドスケープについては過去の産業建設委員会において、例えば西部山麓線からの眺望などにも触れてきた経緯があり、三遠南信道を活かすためには重要な要素となる。専門家の知見も得やすい環境にあることから、「景観のあり方」の検討範囲を広げて取り組むことが必要。 ・土地利用計画の変更に係るリニア駅周辺の土地利用構想の検討は、市の政策の方向性と地元の意向による過去の経緯を踏まえながら、地元、及び議会への丁寧な説明を要する。 	

年度戦略 (小戦略)	13-②	リニア中央新幹線や三遠南信自動車道の整備効果を地域振興に活かす 広域交通拠点整備と広域道路ネットワークの強化
評価のポイント	基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等	
戦略計画は基本目標の達成のために、その役割を果たしたか	<p>【成果】 <input type="checkbox"/> 評価する <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当 <input type="checkbox"/> 評価できない 理由等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市道整備関連、リニア駅周辺整備関連、代替地整備関連、国県関連など、概ね計画通り進捗していることは評価できる。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一方で、広域的な道路ネットワークを考えた時、リニアや道路を利用する皆さんが、具体的な導線をイメージできるような展開が必要。 ・代替地については、約9割の地権者の皆さんに同意をいただいているとの説明であった。残り1割の地権者の皆さんについては、移転場所や補償額等さまざまな要因があると推測するが、引き続き地権者の皆さんに寄り添った丁寧な案内をお願いしたい。 ・リニア駅前広場や高架下の管理運営は施設整備後の大きな課題であり、民間活力を導入しながら着実に検討を重ねられたい。また、リニア開業の具体的な時期が見通せない民間参入が難しいとの状況は理解するが、その中にある進捗状況は適宜説明されたい。 	

年度戦略 (小戦略)	13-③	リニアの2次交通及び持続可能な地域公共交通の実現と、AI等を活用したスマートモビリティの実装技術
評価のポイント	基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等	
戦略計画は基本目標の達成のために、その役割を果たしたか	<p>【成果】 <input type="checkbox"/> 評価する <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当 <input type="checkbox"/> 評価できない 理由等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バスの乗り継ぎがネットで検索できるオープンデータの整備や点群地図等を用い自動運転車両の導入について検証を重ねていることは評価できる。 ・市民バスの利用者数については、コロナ禍前の状態には戻っていないものの、前年対比でプラスの実績が出ていることは評価できる。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一方で、市民生活に欠かせない持続可能な地域公共交通を実現するためには、今後も更に精緻な実態調査を行ったうえで、方向性を検証していくことが必要である。現状は、特に乗り合いタクシーの利用者数がなかなか回復しない状況と認識している。全国の事例では、利用者数を増やすため、セダン車両の使用や医療機関の協賛広告などで利用料金を下げ利便性を改善している例もあり、参考にされたい。また、高齢者や免許返納者などの交通困難な方への対応は、喫緊の課題でありスピード感を持って進められたい。 ・自動運転車両の導入については、利用データや手法など、日々進化をしていくことが推測されるため、常に情報収集しながら、地域にマッチした導入手法を検証していくことが必要。 ・「この地域らしさを活かしたスマートモビリティ」の意味は「環境への配慮」とのことで、大切な取り組みと評価するが、一歩進めて「環境に特化」という意識をもつことが、環境文化都市としての役割とを感じる。 ・JR 飯田線の存続に向けた取り組みの強化を図られたい。また、飯田線との接続方法や周辺整備についての方針、進捗状況について適宜説明されたい。 	

年度戦略 (小戦略)	13-④	市民サービスを向上するデジタル化の推進
評価のポイント	基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等	
戦略計画は基本目標の達成のために、その役割を果たしたか	<p>【成果】 <input type="checkbox"/> 評価する <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当 <input type="checkbox"/> 評価できない 理由等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・諸証明のコンビニ交付サービスやマイナンバーカードを利用した「書かない窓口申請システム」の導入、市からの情報発信力の強化のためのプッシュ型情報発信ツールを開始したことは、市民サービスの向上につながり評価できる。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DX を推進していくことは、市民生活の利便性の向上につながることに認識している。一方で高齢者など、デジタル社会に一線を引いている市民の皆さんも存在しているため、そうした皆さんを視野に入れた施策展開が必要。また、DXの推進については、他自治体との共同企画・利用など、広域的視点を持って取り組まれたい。 ・LINE によるプッシュ型情報発信の取り組みは評価するが、利用者数が伸び悩み傾向にある。例えば、自然災害発生時の情報伝達手段の一つとして、どのような効果が期待できるかをアピールするなどして、飯田市地域情報アプリと共に、利用者の増加に力を注がれたい。 	

評価のポイント	基本目標との関係性から 評価できる点と今後に向けた課題・方向性等
実績を踏まえ 2023 年度の方向性・妥当性・社会的環境変化への適応状況	<p>【評価】 <input type="checkbox"/> 評価する <input checked="" type="checkbox"/> 概ね妥当 <input type="checkbox"/> 評価できない 理由等)</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リニア関連の情報を飯田下伊那の住民に如何に的確に届けられるかが、重要な課題。

事業No.	34	事務事業名	リニア二次交通整備事業
基本目標	13	リニア・三遠南信時代を支える都市基盤を整備する	
小戦略	③	リニアの2次交通及び持続可能な地域公共交通の実現と、A I等の技術を活用したスマートモビリティの実装	

「評価視点・評価のポイント」からの 評価できる点、今後に向けた課題・方向性

【評価】

- ・年度戦略（小戦略）を実現するために、概ね妥当と評価する。
- ・リニア駅から中心市街地までの接続・移動に自動運転技術を導入することを想定して、ルートの検討を行い、仮想空間上におけるシミュレーションを市内 15 kmで行い、対象区間の検証を行ったことは評価する。

【見直し・改善点等】

- ・自動運転車両の導入については、利用データや手法など、日々進化をしていくことが推測されるため、常に情報収集しながら地域にマッチした導入手法を検証されたい。また、2027年を一つの目安とした場合の今後の方向性（スケジュール等）を示されたい。

次年度以降に対する判断

継 続

事業No.	35	事務事業名	交通体系整備事業
基本目標	13	リニア・三遠南信時代を支える都市基盤を整備する	
小戦略	③	リニアの2次交通及び持続可能な地域公共交通の実現と、A I等の技術を活用したスマートモビリティの実装	

「評価視点・評価のポイント」からの 評価できる点、今後に向けた課題・方向性

【評価】

- ・年度戦略（小戦略）を実現するために、概ね妥当と評価する。
- ・バスの乗り継ぎがネットで検索できるオープンデータ（GTFS-JP）の整備ができたこと、公共交通路線ごとの利用状況分析を行っていることは評価する。

【見直し・改善点等】

- ・一方で、乗り合いタクシー利用者の減少が続いている。更なる分析を行い、引き続き交通弱者の支援に努められたい。市民生活に欠かせない持続可能な地域公共交通を実現するため、今後も事業を推進されたい。

次年度以降に対する判断

継 続

事業No.	47	事務事業名	リニア駅周辺整備事業
基本目標	13	リニア・三遠南信時代を支える都市基盤を整備する	
小戦略	②	リニア中央新幹線や三遠南信自動車道の整備効果を地域振興に活かす広域交通拠点整備と広域道路ネットワークの強化	
「評価視点・評価のポイント」からの 評価できる点、今後に向けた課題・方向性			
<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度戦略（小戦略）を実現するために、概ね妥当と評価する。 ・リニア駅周辺の土木実施設計の公表や関連工事を進めるなど、広域交通拠点整備の実現に向けた取り組みに関して評価する。 <p>【見直し・改善点等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅前広場や高架下の管理運営の事業体組成や二次交通等における新たなモビリティ活用については緒についたばかりである。民間事業者の意欲を引き出すために、JR 東海に開業時期を早急に示すように働きかけるとともに、市としての具体的な活用イメージを提示されたい。 ・重点協議区域はリニア駅周辺整備との関連性が高い。また、大屋根の設計に取り組むこととなるが、駅前広場の全体感や駅周辺の土地利用や景観の方向性を示し推進されたい。 ・リニア駅周辺整備に向けて今後ますます機運を高めていくことが必要である。設計や事業の推進にあたっては、時機を逸することなく、市民や議会に説明をされたい。 			
次年度以降に対する判断			
継 続			